

2. 河川整備の実施に関する事項

2-1 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される河川管理施設の機能の概要

2-1-1 洪水等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

(1) 洪水時の流量を調節するための対策

河川整備計画の目標流量に対応するため、既設の岩尾内ダムや堤防整備、河道掘削などとともにサンルダムを建設し、ダム下流の名寄川及び名寄川合流後の天塩川の洪水被害の軽減を図る。

これにより、菅平地点における河川整備計画の目標流量 4,400m<sup>3</sup>/s のうち、岩尾内ダム及びサンルダムで 500m<sup>3</sup>/s を調節して、河道への配分流量を 3,900m<sup>3</sup>/s とする。同様に名寄大橋地点における目標流量 2,000m<sup>3</sup>/s のうち、岩尾内ダムにより 200m<sup>3</sup>/s を調節して、河道への配分流量を 1,800m<sup>3</sup>/s とする。また、名寄川の真勲別地点における目標流量 1,500m<sup>3</sup>/s のうち、サンルダムにより 300m<sup>3</sup>/s を調節して、河道への配分流量を 1,200m<sup>3</sup>/s とする。

なお、河川整備基本方針の目標に対しては、菅平地点の基本高水のピーク流量 6,400m<sup>3</sup>/s に対し、岩尾内ダム及びサンルダムの洪水調節施設で 700m<sup>3</sup>/s の調節を図り、河道への配分流量は 5,700m<sup>3</sup>/s となる。同様に、名寄大橋地点において基本高水のピーク流量 3,300m<sup>3</sup>/s に対し、岩尾内ダムにより 500m<sup>3</sup>/s の調節を図り、河道への配分量は 2,800m<sup>3</sup>/s となる。また名寄川真勲別地点において、基本高水ピーク流量 1,800m<sup>3</sup>/s に対し、サンルダムによって 400m<sup>3</sup>/s の調節を図り河道への配分流量は 1,400m<sup>3</sup>/s となる。

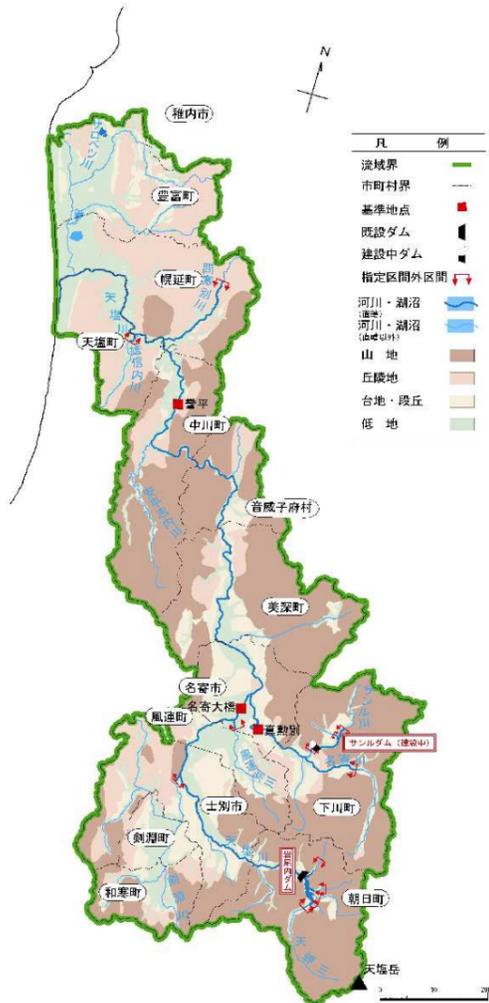


図 2-1 岩尾内ダム及びサンルダム位置図



岩尾内ダム



サンルダムの完成予想図

サンルダム案で基本方針流量に対応するためには河道掘削はさらに必要になるが、整備計画で建設するダムは基本方針流量まで対応が可能な施設である。それに対して整備計画の遊水地案では基本方針流量に対応するためには、天塩川本川にさらに遊水地を整備する必要があるとともに、名寄川沿川の洪水防御対象区域内のほとんどの農地を潰して遊水地を整備しなければならず、現実味の無い計画となってしまふ。

基本高水流量の 1,800 m<sup>3</sup>/s のうち 400 m<sup>3</sup>/s をカットするためには、名寄川のどこかでカットしなければならない。遊水地は相当な部分の農地を潰さないといけないので、地域の経済に対する影響等は大きすぎるのではないか。

長い歴史と伝統の中で耕作が続けられてきた農地を遊水地にするということは、日本の将来に向けて食糧確保を担う北海道や生産者・地権者にとっても大変ショッキングな議論である。仮にこういう事も考えられるという程度で議論するべきである。

ダム予定地の遊水地は、ダムほど貯留高を高くできないため洪水調節ボリュームが少なく、守るべきところから遠いところに設置するので、効率の悪い施設となる。また、名寄川は急流河川であり、大きな礫が遊水地内の農地に入ったときに、そこが再び農地として使えるか、継続的に農地として生産が出来るか非常に疑問である。

二年前、豪雨により二風谷ダム上流において土砂崩れ等により木々等が倒れ、そして川に流れ込みその木々が二風谷ダムの湖面を覆い尽くしてしまったことが発生した。もし、このダムがなかったら木々等が下流に流れ込み大きな被害をもたらしたであろうと考えるとダムの重要性を皆さんに示したものと考えます。いつ何時、大きな災害が発生するかわからない。備えあれば憂いなし。気象条件及び地域の利便性そして河川の生態系を崩さぬよう考慮したサンルダムの建設をお願いします。

命をも奪う災害に対応しなければならない。サンルダムの完成を早く望む。

昭和 48 年の夏、大雨により天塩川が増水、氾濫。私の住んでいた家も水没した。サンルダム建設も災害防止になると確信している。保水というのだろうか。多くの災害対策がとられているが、サンルダム建設を早期に望む。

天塩川中流域の音威子府村に住んでいる。天塩川には、たくさんの大小の支川がさしこむ。上流部での大雨時には中流域・下流域で想像を絶する増水現象が見られる。とても怖いものだ。それだけ市街の近くに天塩川が流れているからだ。それも市街中心部に近い。このようなことから下川町に計画されているサンルダムの一日も早い完成を願う。

自然との調和といわれるなか、生活者として災害には今まで多くあって来ている。災害を未然に防がなければならない。生命を守るためにもサンルダムの早期完成を望む。

本地域では、近年洪水には見舞われてはいないが、他地域の洪水被害の報道等に接すると大きな不安を感じる。このような不安を取り除く意見からも同ダムの建設を早急をお願いしたい。

私は下川町からは、100 キロほど下流の中川町に住んでいる。又、数年前には隣町音威子府村で増水により築堤側のグラウンドが水没したこともあった。サンルダムは下川町だけの問題ではないと思う。同じ天塩川水系で暮らす私としても一日も早い着工完成を望む。

天塩川流域は、これまで幾多の洪水に見舞われてきた。流域でも森林整備は行われていると思うが、下川町では特に森林整備に力を入れており、植林については昔から継続されている。にもかかわらず、近年、大雨が降ると川の水が一気に増大し、河床を変えるほど、砂利や砂を流してしまう。大雨や雪解けによる増水時に少しでも出来るサンルダムの機能は必要である。

環境を守ることも大事だが、流域に住んでいる住民が安心して生活できうる環境を作ることも必要である。そこでサンルダムが今後 50 年、100 年後に人間と環境が共生できるように作って欲しい。

洪水時、水量が上がって激流となって流れる姿は、親しみのある川が恐怖の川と変貌し、内水被害をもたらす。この内水被害は農作物へ大きな影響を与えておりますので、洪水被害を最小限に食い止めるためサンルダムの早期着工を願うものである。

サンルダムは、以下の機能を有する多目的ダムである。

- ・洪水調節  
サンルダムの建設される地点における計画高水流量 700m<sup>3</sup>/s のうち 610m<sup>3</sup>/s の洪水調節を行う。
- ・流水の正常な機能の維持  
下流の河川環境の保全や既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る。
- ・水道  
名寄市の水道用水として、名寄市真勲別地点において新たに最大 3,700m<sup>3</sup>/日、下川町の水道用水として、下川町北町地点において新たに最大 530m<sup>3</sup>/日の取水を可能とする。
- ・発電  
北海水力発電株式会社が、サンルダムの建設に伴って新設するサンル発電所において、最大出力 1,400kW の発電を行う。  
注）水道・発電については現基本計画（平成 7 年）より記載。

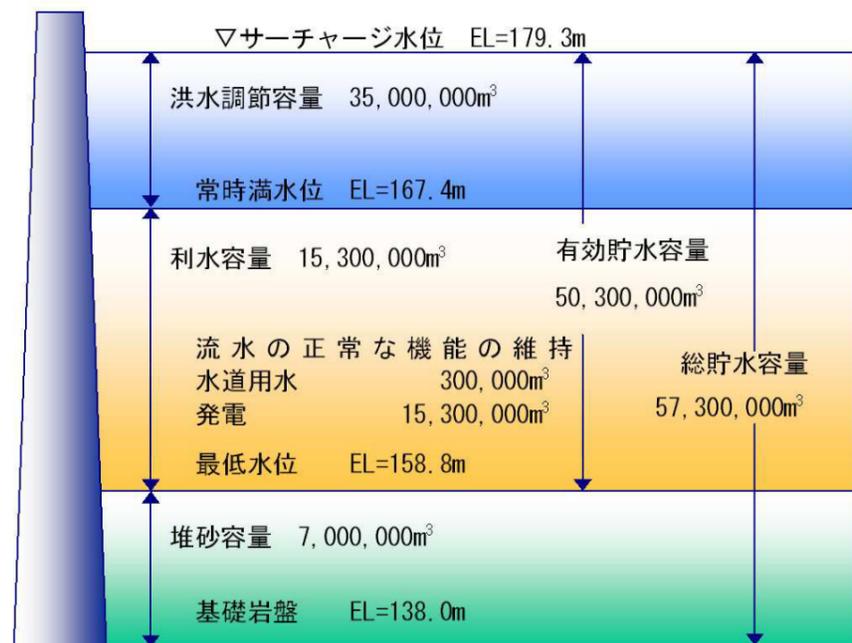


図 2-2 サンルダムの貯水池容量配分図

注)利水計画等の変更により、記載内容を変更することがある。標高は、旧基本水準点による。

経済性が有利であるサンルダムを中止する理由が見つからない。洪水被害軽減効果早期発現のため、サンルダム完成を望む。

祖父の家がダム建設予定地の下流域にあるが、大雨の度に田畑が冠水する。祖父は、田畑の冠水状況を見て、「今年もやられた」とつぶやき「今年も出稼ぎか」と漏らしていたことをよく覚えている。早くダムが出来て祖父の苦勞が無くなるように願っている。

水の力、自然の力は、洪水をおこし、家屋を破壊し農作物が被害を受けたのを何度もこの目で見てきた。自然の大事さもわかるが、地域を守ること、ゆとりある生活が出来ることも必要である。天塩川流域の利益を守るためサンルダムの計画が必要と思ひ、早期完成を期待する。

いまだ大雨が降るたびに不安でいっぱいである。少しでも早くこの不安を取り除く様にして欲しいと思うところだ。この地は名寄川と天塩川の合流点の少し下流にあることから集中して大量に水かさ上がる。早く安心して農業が出来る様、大きなダムを早急に建設していただきたい。

下流の被害を効率よく軽減するダムは天塩川にとって必要なものだと思うし、皆様の生活を守ってくれるものだと思う。二酸化炭素の発生を抑制し、安定した電力を供給するためには、水力発電は有効な手段であり、発電や治水を含め環境保全の観点からも重要な役割を担うサンルダムの建設は早期に実現していただきたい。

私はサンルダムの多目的用途は勿論の事、洪水対策の役割も大きいと思う。一日にも早いサンルダムの着工を切望する。音威子府から中川町までの天塩川は特に曲がりくねって幅が広くなったり狭くなったりしていく。そのため増水したときには災害が本当に心配である。災害等を防ぐため是非サンルダム建設を急いで欲しい。

「備えあれば憂いなし」というが、災害に備えておくことが我々の次世代への責任かと思ひ意見を述べることにした。サンルダムの完成により地域の災害が少しでも減ることが望まれる。

天塩川は南北に細長く山間地を流れており、川に沿った流域が生活の場であり、近年の異常なまでの雨の降り方などの災害に備え治水対策をサンルダムに望む。

私ども天塩川流域特に下流地域に住む者として洪水での被害をなくす為にも又、水道水、農業用水の確保、発電又河川環境の保全などのダム建設の必要性を認識し一日も早いサンルダム完成を望む。

我々の生命、財産及び公共のまた、自然の財産を守る為にも知恵を使った流量を調節するダムが必要でありその水の流れを制御しコントロールする為にもまた、さまざまな人たちの知恵を出し合った河川に於ける治水事業は必要不可欠である。

生活の安全確保には、下川サンルダムは必ず必要とする。早急な建設を願う。

天塩川と隣接して生活している市町村の皆さんが一番心配していることは台風による大雨、天塩川の氾濫による被害ではないだろうか。安心して生活していくためにはサンルダムの建設は絶対必要ではないだろうか。

中川町の基幹産業は農業であり農地はこの町の産業の生命線といえるわけだが、天塩川の洪水調整にこの農地が遊水地に変われば広大な農地が消滅し農家も離農しなければならなくなる。天塩川の水利調整はサンルダムで進めていただきたい。

農作物の洪水被害を最小限に止める意味でもサンルダム建設を進めることは、本流域に住む人々にとって大変重要なことだと考えるし、下流域に暮らす住民への被害が甚大にならないよう早期に建設を望むものである。

サンルダムを建設することはある程度の自然を犠牲にすることなのだろうと思うが、未来永劫、ここに住み続ける者の安全を守ることも大きな使命であるから早期完成を願っている。

洪水調節機能を持つダムを建設することで、流域住民の安全性がより保障されることになる。今後も、天塩川の整備及び管理は国の責任において実施していただきたいと考えている。

天塩川流域は地形的に南北に長く山間の中を天塩川が流れており、その天塩川に沿った狭い平地部に住居と農耕地がある。遊水池の場合は、農耕地帯のかなりの面積が制約を受けることと考える。この地域の少ない農地を守るためにも、ダムによる治水効果を望む。

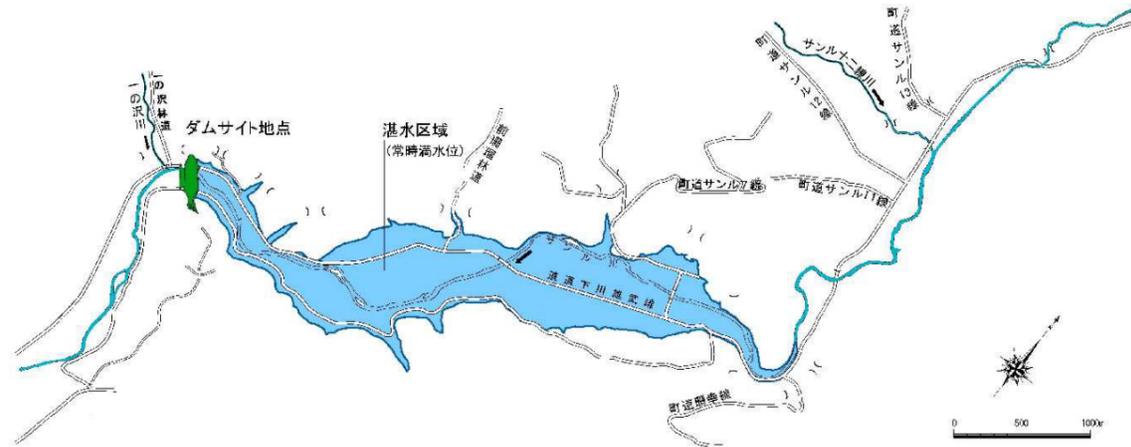


図 2-3 サンルダム貯水池平面図

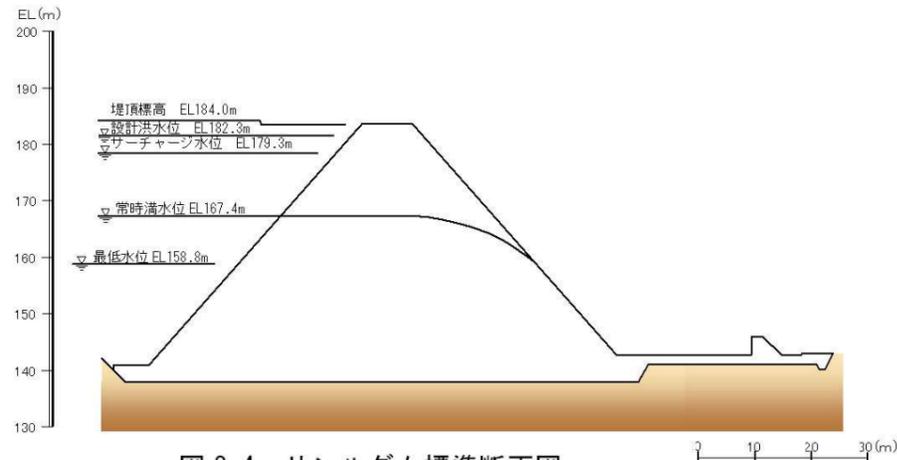


図 2-4 サンルダム標準断面図

注) 利水計画等の変更により記載内容を変更することがある。標高は、旧基本水準点による。

表 2-1 サンルダムの諸元

ダム形状	重力式コンクリートダム	
堤 高	約 46m	
堤 頂 長	約 350m	
堤 体 積	約 480 千 m <sup>3</sup>	
集 水 面 積	約 182.5km <sup>2</sup>	
湛 水 面 積 (常時満水位)	約 2.2km <sup>2</sup>	

注) 利水計画等の変更により、記載内容を変更することがある。

私は岩尾内ダムの効果の素晴らしいことを地域に住んで実感している。現在サンルダムの中で議論されているようだが、私の経験から安全・安心の地域を早期につくるためにも、サンルダムの建設を推薦する。

よく「たった 10cm しか水位が低くならない」という話を聞くが、洪水時は 10cm で破堤を引き起こしたり、被害の大小が決まる。営農していく上で濁水時の 10cm が大きく収穫に影響致す。代々守ってきたこの地域の広大な土地を遊水地にするのは我が町内の皆さんが許さないだろう。どうか洪水調節あるいは夏の洪水期に安定した水を供給してくれるサンルダムの 1 年でも早い完成を期待している一人である。

サンルダム事業は天塩川の河川整備・管理について根幹をなすものである。今一度、自治体や住民団体と連携した天塩川づくりを目指し、委員会内でも十分に議論を呼び起こした上で取り進めていただきたい。

最近の異常気象が多く、自然災害が起こる前に対策をとる必要があると思うので、是非サンルダムの建設を強く要望する。

洪水などのない安全で安心な生活を求めるとともに、河川の環境保全やクリーンエネルギーの供給など、環境に配慮した「サンルダム」の早期本体制工と、一日も早い完成を町民一丸となって熱望する。

流域に住む我々の生活と産業基盤を守るためにも、また地域を守るためにも有効な治水対策を早期にお願いする。

不安定な天候状況を見たとき、いつか天塩川流域に大雨が来るのではないかと不安になる。濁水もさることながら大雨による洪水は流域の住民にとって大変な被害をもたらすことになる。被害が起きる前に、一日も早く洪水対策や、濁水から河川の環境を守るなどの河川整備を進めて欲しい。

流域を洪水や濁水から守ることを第一に考えて欲しい。

安全や安心な生活を送るためにも治水や利水は必要である。

これから先、安心して暮らしていける街を作っていく事が、大切なことではないだろうか。

濁水期の計画的出水により、河川の水質改善につながり、よりおいしい水が提供されると聞いており、早期の整備が期待される場所である。また農業用水において、水量の安定確保が望まれ、さらに集中豪雨による水害防止からもサンルダムはぜひ早い段階での完成が必要であると思う。

流域住民にとって憂いのない日常生活と安心安全に生産活動に取り組めるためにも高度な洪水調節機能を持ったサンルダムの建設が是非と考える。

私が住む名寄市砺波は天塩川と名寄川の合流点であり、河川の流量の増加による田畑の浸水が発生することがある。サンルダムができることで、名寄川の水量調節機能により田畑を水害から守ることができる。私は、安心して農業を営むことができるために、サンルダムの早期完成を希望する。

農業用水が確保されるような整備が必要で、サンルダム建設については関係する地区の農業者にとっては一日も早い完成を願っているのではないだろうか。過去には大雨により、水田が水につかり被害を受けた地区もあり、安心して農業に打ち込めるように願うところである。遊水地の計画もあるようだが、もと自分の農地に泥水を入れるとしたら、賛同できるものではない。その後の復旧に何年かかるのか、その時に自分の田畑に泥水を入れるなんて誰も賛同しないだろう。私たちには農業を守っていくという責任がある。サンルダムの早期完成を願う。

特に私たちの生活基盤である一次産業の農業では、農地を守り、作物を育てる治水と利水は自分たちの命と同じくらいの意味をもっている。サンルダムはそうした私たちの切実な希望が託されている。ダムの代替案として提起されている遊水地案については、自分たちのかけがえのない農地が遊水地として接収もしくは借り上げされ、洪水覚悟で営農し、仮に収穫を失うことになればだれが希望や意欲を持って農家を続けることができるだろうか。農地の遊水地への転換はその地での農業の荒廃を意味する。これまでの農業を発展させてきた治水そして利水の歴史を真っ向から否定する案である遊水地への転換はとても受け入れることはできない。

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成 14 年 3 月）	：流域委員会における意見、	：寄せられた意見
	<p>私たちは何十年もかけて土作りを行ってきた。そしてやっと今、厳しいが実りある農業を行っている。たとえ 20 年に一度の水害であっても農地を遊水地にするとはあまりにも乱暴すぎると思う。田畑に泥水が入ったとき、もとの田畑に戻すには何年かかるのだろうか。私たち農業者のことも考えて欲しい。</p> <p>当地域においても豪雨による洪水や、猛暑に干天日数が加わると渇水等、大災害が何時発生するかは予想出来ないが、「備えあれば憂いなし・・・」また、利水についても、水利権の伴う飲料水・農業・工業用水等、人が生きのびるため、生活するための水源確保は絶対の必要条件である。安心して安全な暮らしを守るために一日も早い、ダム建設の完成を願っている。</p> <p>治水、利水そして川を守るダムであるなら私はその建設に賛成する。</p> <p>サンルダムができれば大雨と干ばつにも対応していくことが可能になるのではないだろうか。治水と利水、相反することに対して調整機能があるということは素晴らしいと思う。自然に配慮しながらサンルダム建設を一日も早く進めて欲しい。</p> <p>近年の急激な都市化に伴う治水施設の充実を図り、次の目標達成のためにも、これまでに苦労された多くの方々と共に一日も早いサンルダムの完成を願う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水調節</li> <li>・河川水の確保</li> </ul> <p>自然は決して完全にコントロールは出来ないとしても、現在考えられる最良の方法での治水対策に大きな期待を持っている。また、今年のように雨不足での渇水時にも貯水をして、安心して水を計画的に使用できることも重要なことである。治水対策として、一方で遊水地構想があるようだが、生産者として広大な農地を提供し農作物をつぶすようなことは、長い歴史の中で耕作してきた者として断固として反対しなければならない。サンルダムの必要性について、特に 2 点ほど具申したが、名寄市民、農業経営者として着工以来 10 年も経過している中、早期にダム本体工事に着手し、1 年でも早く完成することを強く要望する。</p> <p>洪水調節、河川環境保全、クリーンエネルギー供給を図ること。観光産業など地域活性化の 2 次的効果への期待があること。将来に向けて、安心安全を確保し流域の生活環境を向上。遊水地構想では地域農業斜塔の理解は困難なことなどから、サンルダム建設の必要性を強く要望する。</p> <p>ダム建設反対の方々は遊水地の問題を出しているがそれでも名寄川流域の豊かな土地を潰すことは私たち農民は絶対許すことはできない。我々農民は土地が命である。災害の発生前に早急にサンルダムの完成がなされるようお願いする。</p> <p>大好きな天塩川の流れを「災害」発生の「悪」のイメージにはしたくない・・・そう思っている。サンルダムを早く完成させれば環境保全や管理面でも開発局に頼ったことにならず、地域住民の活動も活発になると思うので、早く完成させて欲しい。</p> <p>「天塩川らしい」環境には一定程度の治水対策などが必要であり、ダムの建設は必要であると考えます。</p> <p>最近の異常気象を考えると、100 年に一度の洪水を想定した治水のためのサンルダム建設を進めることは、人命尊重の上で大変重要なことである。100 年に 1 度の洪水が起これば、中流域、下流域に暮らす住民への被害が甚大になるだろうことは、だれもが想像できると思う。川上に住む人間として、サンルダムの必要性を認識し建設を促進していく事が重要である。</p> <p>私は、サンルダムが下川町の未来に大きな恵みをもたらすと期待している。町民の大多数も治水対策としてサンルダムに賛成しているし、ダムの周辺整備にも楽しい期待を持っているようである。</p> <p>水に関しては、古来より、中国でも日本でも「水を制するものは国を治める」と為政者に与えられた命題でもあった。人間が自然を利活用するとき、自然に手を加え、多少の変更を迫ることは避けて通れないものである。肌で感ずるのは、豪雨の時の名寄川だ。水の増水が早く、水位が急に上がり、濁流となる。渇水時には、名寄の浄水場は大丈夫だろうかと思う。近年、生活水準の向上で水の使用量も増えている。また、風連との合併後の浄水供給を考えると、安定した水源の確保は不可欠の対策ではないかと思う。多目的用途のサンルダムの建設は是非とも必要であり、一日も早い着工と完成を願う。</p> <p>昨今の世界規模で起きている異常気象から考えれば、「備えあれば憂いなし」であり、厳しく限りある財源の中でできる限りの事はすべきである。「サンルダムが早く完成していれば・・・」ということがない様にサンルダムの早期完成を願っている。</p>		

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成 14 年 3 月）	：流域委員会における意見、	：寄せられた意見
	<p>災害を防ぐ意味でもサンルダム の 早期完成を望む。</p> <p>サンルダム の建設は治水や上水道水源、発電、河川維持用水の確保などが目的と聞いている。将来の子供や孫のためにもまたこの地域の発展のためにも、建設途上にあるサンルダム の早期完成を願っている一人だ。</p> <p>春になると融けた雪が天塩川に流れ込み増水していく様子は実に不気味で、水の力、迫力に驚くほどである。雨季時にしてもやはり同じ状況が見られ近郊の街では、畑・草地まで増水し、かなりの日数が過ぎても水の量が減らなかったのを覚えている。このダム の建設によってこのような事態が少しでも緩和され、水不足の際の水源地確保に役立つものとして早期完成を望む。</p> <p>当ダム(サンルダム)の洪水調節が、今後、この流域に住む住民にとって不可欠である。ダム建設においても長期間の工期がかかるため、今のうちから将来の憂いを残さないためにも早期の工事着工を望む。</p> <p>近年、胆振・日高地方で台風による水害の恐ろしさを改めて知りました。ダム の建設は水害の被害を最小限に食い止めることができると思うので、早期のダム の完成を望む。</p> <p>頑丈で大きな堤防が街を守っている。しかし、それでも大洪水が起きると危ないのではないかと聞いたことがある。まずは上流部の下川町におけるサンルダム 完成を急ぎ危険度を下げて欲しい。</p> <p>平成 15 年日高地方での大雨による大洪水は、地域住民への被害を最小限に食い止めるダム機能の重要性を認識させることとなり天塩川流域での洪水を考えると、上流地区に多目的ダム の設置は下流地区における重要な施設である。一日も早くサンルダム 建設の完成を願い、安心した生活のできるわが街であるように願う。</p> <p>子供のころ、水害にあい両親と稲を 1 株 1 株泥水で洗い起こして働いたときを思い出す。今後このようなことのないよう、住みよい地域で安心して生活できるよう早いサンルダム 建設を願う。</p> <p>最近の農業を考えると、100 年に 1 度の洪水を想定した治水の為のサンルダム 建設を進めることは、人命尊重の上で大変重要なことである。川上に住む住民はサンルダム の必要性を認識し、建設を促進していく事が必要である。</p> <p>治水事業は災害の防止または復旧に重要な事業である。地域住民にとっては安心して生活できるよう、一刻も早いサンルダム 建設を願う。災害が発生する前に完成することを望む。</p> <p>サンルダム が早く完成して、安心して天塩川と暮らしていきたい。</p> <p>何年か前に日進地区の水田が水につかり被害を受けている。私には農家の親戚がいて頭を抱えていたのを思い出す。本当にこれで治水対策は大丈夫なんでしょうか？水量が少なく用水に流すのに苦労していたということも聞いた。以上のことを考え、サンルダム はどうしても必要だと思う。</p> <p>私たちが子孫が安心して暮らせる環境づくりを目指すうえで是非、河川環境整備（サンルダム の早期完成）を望む。</p> <p>現在地球上では温暖化現象により異常気象が発生している。何時、大洪水が起こり天塩川が氾濫するかもしれない。このような事態が発生する前に、私たち下流域に住む人が安心して暮らしていけるよう一日でも早く天塩川の整備を希望する。</p> <p>人命を守る意味において、一日も早く着工完成に努めて欲しいと願う。</p> <p>サンルダム は洪水調節、洪水の正常な機能維持、水道水の供給、発電が目的と聞いている。将来の子供、孫のためにも、地域の発展のためにも早期ダム 建設は必要と考える。</p> <p>私はサンルダム の完成を心待ちにしている一人である。上川北部は観光資源面についてこれといった物もなく、その中でサンルダム ができることによってこの地域の観光の拠点となるのではないかと考えている。ダム が完成するに当たって、治水対策が図られ、また水田や畑に水が豊かに流れ、そして私たちの飲料水が確保される。</p> <p>ダム 建設は、費用対効果からみて現在最も望ましい治水事業であり、かつ、関連対策工事を加えれば一層の効果が期待できる手法である。</p> <p>安全性がどのくらいというのも大事であるが、不測の事態に備えた対策や整備により、安全で安心のできる地域を早急に作るためにもサンルダム の建設を推薦する。</p> <p>発生してはならない大洪水だと思うが、万が一に備えなければならないと考える。サンルダム の建設については、一日も早く完成整備されるべきものと強く要望する。</p>		

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成 14 年 3 月） ：流域委員会における意見、 ：寄せられた意見
	<p>サンルダムは洪水調整という「治水」だけでなく「利水」も目的としている。だからこそサンルダムは農業面からも必要なのだ。私は多目的に利用し治水や農業用水また観光や生活用水など未来に残せる大きな財産にしていければと考えている。もっと前向きな議論をしながら、そして洪水などの心配がなく安心して暮らせるような将来を作るためにも、サンルダムの完成を望む。</p> <p>水田等で使う十分な水が無くなるのではないかと言う人がいる。水害に備えた対策をとり、安全な街とすべきだと思う。それぞれの立場の人たちと一定の妥協も得ながら、サンルダム建設と天塩川水系の河川整備を願う。</p> <p>サンルダムは効果が発揮されるのも早く、ダムの下流全体に対して調節効果があることを聞いている。また、天塩川流域委員会が提案した遊水地案もあるようだが、この案については多くの農地面積を犠牲にしなければならない。</p> <p>サンルダムが備えている機能として、治水・上水道・発電はもちろんのこと、水量の調整もダム機能の重要な要素であると聞き及んでいる。動植物の生息や自然環境に充分配慮し、地域の長期的な発展やそこに住む人々の幸せに貢献できるサンルダムとして、私は 1 年でも早い完成を希望している。</p> <p>春先に雪解けによる河川の増水、異常気象による住民の被害を避けるため、ダムの早期着工・早期完成を願う。</p> <p>天塩川流域に住むものとして大雨による河川の氾濫（大洪水）を未然に防ぎ、地域住民の生命、財産を護るためにも上流等にダムが必要と思う。被害が生じる前にダム完成を望む。</p> <p>ここ数年の異常気象では 100 年に 1 度の大雨もいつ発生するかわからない状態である。大雨が降るたびに心配しなければならない。安心して暮らす町づくりにはダムは必要だと思う。</p> <p>新聞やテレビ等で報道される悲惨な洪水被害から地域を守り、財産を守るためにもサンルダム建設による治水事業を進めて欲しい。</p> <p>行政と連携し、安全で安心できる地域を作って欲しいと考えている。そのためにもサンルダム建設はこの天塩川流域には必要不可欠であるとする。</p> <p>是非、災害が起きる前にサンルダム建設工事の着工を早急に願う。</p> <p>新たな天塩川におけるサンルダム建設は、この地域に生活する私たちにとって必要不可欠であるとする。</p> <p>ダムの本体着工がまだ行われていないとのこと、早期に着工して安心して生活できる環境を作って欲しいと思う。</p> <p>近年に洪水がきたら不安でいっぱい。早急にサンルダムを建設して欲しい。</p> <p>近年、テレビや新聞等によると雨の降り方が今までとは違って集中して大量に降るといったようなことが報道されている。あのような降雨が当地域に襲ったらどうなるだろうと思うと不安でいっぱい。当地域で安心して生活できるように、一刻も早いサンルダムの建設を願う。</p> <p>一昨年は北海道、胆振・日高地方においても大きな洪水被害が発生している。当地であのような大雨が降ったらどうなるのだろうと思うと大きな不安となる。当地域で安心して生活できるよう、一刻も早いサンルダムの建設を願うものです。</p> <p>名寄市近郊でもいつ大雨が降り、災害が起こるかもわかりません。ダムは水量調節に必要なものとテレビで知った。一日も早いサンルダムの着工をして欲しい。</p> <p>天塩川らしい水辺環境の創出と、総合的な治水対策を促進するため、サンルダムの早期建設が必要とする。</p> <p>市町村住民の生命と財産を守るため、早急に本体工事を着手され、災害が発生する前に完成することを望む。</p> <p>住民として納税者として安全で安心して生活していただける地域を作っていただくためにも他のダム計画規模以上のサンルダムを早急に建設して欲しい。</p> <p>春先の雪解けの時期や夏場の大雨の時は天塩川の水位があがり、山間部から流れ出る支流の氾濫で被害も発生している。このような被害を最小限に食い止めるためにはサンルダムの早期完成が不可欠である。昨年は全国各地で大きな洪水被害があった。一昨年は胆振日高地方でも大きな被害があり尊い命が奪われた。村には天塩川という北海道第 2 の長流・天塩川が流れている。あのような大きな洪水が起きると村は壊滅的なダメージを受けると考えられるので一日も早いサンルダムの着工を願う。</p>

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成14年3月） ：流域委員会における意見、 ：寄せられた意見
	<p>天塩川と共生し暮らしてきた私たちにとって、治水がもたらす安心は何ものにも変えがたいものだと思う。完成間近と思っていたサンルダムが未着工であると聞き、本当に驚いている。是非とも工事を始め、私たちの不安を取り除いて欲しい。</p> <p>後世に禍根を残さぬうちに私たちに今できること、安心して暮らせる町づくり、災害の無い町づくりのためにも早急にダムの着工と完成の推進を望む。</p> <p>地域で安心して生活できるよう、一刻も早いサンルダムの建設を願う。</p> <p>私が住む土別市では岩尾内ダムが完成した後、一部の支流を除いて洪水の被害が無く、これはやはりダムの洪水調整機能の効果だと思う。私たちの貴重な財産である土地や家屋を守るためにもダムは必要だと痛感している。</p> <p>音威子府村から中川町までの間に国道と天塩川が非常に近くなる場所があり、雨天で水量が増加しているときには、身の危険を感じることもある。この様な時に、洪水調節としてのサンルダムがあればとその必要性を感じる。サンルダム建設は多大な効果があるように感じている。</p> <p>岩尾内ダムが完成して以来、天塩川が氾濫する心配はまったく無くなり、夏の渇水の時期にも水はしっかりと確保されていることで安心して耕作できる環境が整った。岩尾内ダムがもたらしてくれた効果は地域で農業に携わるものにとっては、かけがえのないものと実感しており、こうした経験からもサンルダムをはじめ河川整備が促進されることを願う。</p> <p>天塩川流域住民の確かな安全確保と景気浮揚の両面から、サンルダム建設の早期着工を強く望みます。</p> <p>サンルダムにおいても地域住民の生活向上が図られることや自然に配慮できた川の水量を保つことができるよう整備を望む。</p> <p>安全で安心して子供たちが川の自然に親しむことができる環境を作っていくことは私たち大人の義務であり、重要な社会資本の整備として河川整備は必要不可欠な事業であると認識しており、この意味でもサンルダムの建設は有益なものとする。</p> <p>天塩川の洪水被害を発生させないためには、サンルダムの建設が必要であると思う。</p> <p>北海道は全国と比べてまだまだインフラの整備が必要と考えるし、その中においては、住民の生命と財産を守るための洪水事業は重要であり、今後も天塩川の整備及び管理は国の責任において実施していただきたい。早期の建設を切に望む。</p> <p>水害を防止するためにも上流にダム建設が必要だと思う。ダム建設により下流にある市町村の河川敷の災害がなくなれば安心して住める、心配する必要が無いと思う。</p> <p>治水対策事業としてより早く、サンルダムの完成を望む。</p> <p>私たち農業者にとって持続可能な営農を成り立たせるためには、利水のための治水は不可欠であり、流域の発展のために安定的な治水・利水を可能ならしめる「サンルダム」の建設は必須の要件である。</p> <p>高水敷まで水位が上昇することは築堤崩壊の危険性もある。このことからサンルダム建設により水量管理が必要だと思う。サンルダムの早期完成を願う。</p> <p>岩尾内ダムが、天塩川の治水対策に貢献していること見ても、サンルダムの早期完成を願うのは当然である。</p> <p>何時、何処で予測のできない水害が発生するかわからない状況にある時に、やはり出水時に調整機能のもつものが必要に思えてきた。それはダムに求めざるを得ないように思え、サンルダムの早期完成を切に望むものである。</p> <p>一部住民の利害に左右されること無く、流域市町村住民の生命と財産を守るため、早急に本体工事を着手され、災害が発生する前に完成されることを望む。</p> <p>名寄川は夏になると、ほとんど水が流れなくなりよんだ水の川となり、魚の行き場がなくなってしまう。また、春の雪解けの時期は大変な水量で昨年ついに日進橋上流の河川敷で遊んでいた子供が流れにさらわれ溺死する悲しい事故も発生してしまった。こんなことがなくなるようサンルダムの早期完成をお願いする。</p>

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成 14 年 3 月） ：流域委員会における意見、 ：寄せられた意見
	<p>昨年、孫と同じ年頃の子供が流されて亡くなるという悲しい事故があった。もし、サンルダムができて災害の心配が軽減されたとしたら、以前テレビの特集番組で見たことのある昔の水辺に戻そうとする市民団体なんかできたりして、川を通じて市民の新たな連帯感が生まれたりしたら、これは楽しみだなと勝手な想像を膨らませている。ダムが果たしてくれる有意義な役割を期待してやまない。</p> <p>雪解け水を大量に含んだ天塩川の水量は恐ろしいほど増大する。天塩川上流部の名寄地方や下川方面で大雨が降ったときなどは音威子府でさほどの雨ではないのものすごい水量と流れとなっている。このような状態を解消するためにはサンルダムの建設を早期に行う必要があると思う。</p> <p>川に一定の水量が保たれないことには、非常に不自然なことではないだろうか。天塩川の水位の状態が昔のようになるように願っている。もうひとつ気になるのは、融雪の増水期や豪雨時に水量調節ができる施設がないことだ。下流に住む住民にとって、サンルダムの早期完成が必要と思う。</p> <p>特に洪水時、水量が上がり激流となって流れる姿は、親しみのある川が恐怖の川と変貌し、内水被害をもたらす。この内水被害は農作物へ大きな影響を与えているので、洪水被害を最小限に食い止めるためにもサンルダムの早期着工を願うものだ。</p> <p>音威子府村には北海道第 2 の長流・天塩川が流れているが、胆振日高地区のような大きな洪水が起きると、村及び近隣町は壊滅的なダメージを受けると考えられるので、一日も早いサンルダムの着工をお願いする。</p> <p>最近の名寄川は春の増水時の水量はものすごいものだが、夏の渇水時には見るも無残なほど川の様相は一変する。豊かな川とは、水量のある程度一定した中での川岸と調和した風景と機能にあると思う。ダムによって昔のような豊かな川が、もっと安全に、遊びの場や生活の憩いの場を取り戻してくれるものと期待する。</p> <p>胆振日高の大洪水では尊い命も奪われ、あのような洪水が村に起きたら村はなくなってしまいかねない。どうか早くサンルダムを早期に整備して対応して欲しい。早期着工を願う。</p> <p>私も小学生のとき、昭和 48 年の水害被害にあった。家は水没し、その後家の衛生処理は今でも忘れられない怖い思い出だ。川幅が広がる音威子府村は音威子府大橋を越えたあたりから曲がりくねり狭くなり、水量が上がると支川が氾濫する。畑も牧草地帯も水没し農業への影響は所得に響くので重大である。このような災害防止のためにもサンルダムの早期着工早期完成を願う。</p> <p>今まで整備された社会資本（市街地）を守る意味においても、100 年に 1 度といわれる洪水にも負けない安全で安心な地域づくりをお願いしたい。いろいろな反対派もあるが、サンルダムの早期実現をお願いしたい。</p> <p>ダムの建設はもとより、築堤の整備であれ、河道の整備であれ、流域住民の生命、財産を守る意味から、しっかりとした支流も含め天塩川の整備、管理を希望する。</p> <p>いつ何時、大きな災害が発生するかわからない。備えあれば憂いなし。気象条件及び地域の利便性そして河川の生態系を崩さぬように考慮したサンルダムの建設をお願いしたい。</p> <p>人命、家屋、田畑を守るとともに、川の保護を考えたサンルダム建設に着手し、自然災害に備えていただきたい。</p> <p>山の保水力を失わせることなく河川整備、管理そしてダム建設が必要ではないかと思う。サンルダム建設の必要性を認識するとともに、人の財産及び川の生態系を守るダムの建設を促進してもらいたい。</p> <p>美深町は地震・台風がほとんどなく、住みよい地域だが唯一の心配なのは天塩川の水害である。子供がまだ小さいのでダムを早く完成させてもらい、より安全な生活の基盤を確保したいと思う。そのためにサンルダムの早期完成を心から望む。</p> <p>将来起こりうる洪水への対応、農業用水の確保、町づくり、商業振興の拠点などの効果（成果）課題をクリアするためにはダムの存在は必要だと思う。</p> <p>後生に禍根を残さぬように、私達が今できること、安心して暮らせるまちづくり、災害の無い町づくりのためにも、早急にダムの着工と完成の推進を望む。</p> <p>村の中を流れる天塩川が氾濫し大きな洪水が起きると、村は壊滅的なダメージを受けることになる。このようなことから、サンルダムの早期着工を求める。</p>

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成 14 年 3 月）      ：流域委員会における意見、      ：寄せられた意見
	<p>現在のダム計画は昭和 50 年代の洪水被害から決められたものと聞いている。たまたま近年天塩川に洪水による被害が少ないというだけかも知れない。そういったいろいろな背景を見据えて流域委員会が話合われることを望む。</p> <p>最近の気象は何がおこるか分からないので、100 年に 1 度の洪水を想定して作るサンルダムの計画に大賛成である。</p> <p>観光資源の乏しい我町に、ダムを活用した観光地作りが急務であることからダム周辺整備にあわせた「森と水を活用した環境づくり」を目指し町民有志や団体で 2 年間にわたり夢を語り合い「エコパーク構想」を策定し街や事業所に提案してきた。この夢が一日でも早く実現することを心から望んでいる。</p> <p>今後の洪水予想危険地域はどこなのか、その関連で遊水地を考えることが基本であると思う。</p> <p>遊水地候補箇所は他にも考えられ、遊水地案についてもっと検討する必要があるのではないかと。ダムに頼らず、遊水地、河川改修による治水対策を十分に検討した上で、ダム案と比較する必要がある。</p> <p>河道内の植生のほとんどがヤナギ林や草地、牧草であり、本来の川の自然植生はほとんどなく、保全だけではなく、もう少し豊かにする方法を考えなければならない。大切なのは、増水時や増水時に河床が移動したり川自体が変化するような余裕のあること。遊水地案の項目はマイナス面だけでなく、遊水地が河川環境の改善に繋がる可能性があるかについての検討も必要ではないか。</p> <p>意見聴取会でサンルダム予定地を遊水地にするような提案もあったが、遊水地に関して具体的な場所を示さないまでも、効果的な場所の再検討が必要である。</p> <p>名寄川の遊水地案は、暫定堤防が多い天塩川本川の名寄市下流や音威子府上流区間で堤防の完成とあわせて遊水地にした方が、効果的で安くなるのではないかと。</p> <p>サンルダムの建設で名寄市の水道料金も 2 倍になる？！</p> <p>帯広市の水道料金は、札内川ダムの建設によって、6 年間になんと 2 倍にも値上げされた。</p> <p>サンルダムの集水域は天塩川全流域のたった 3%。</p> <p>ダムの集水域に雨が降らなければ、ダムは役に立たない。</p> <p>ここにだけ大雨が降れば、サンルダムは役に立つかもしれないが、そんなことはほとんどない。</p> <p>天塩川の中流～下流域で降る大雨には、サンルダムは全く役に立たない。</p> <p>たとえサンルダムが効果を発揮したとしても、それで下げられる水位は、名寄市付近ではせいぜい 10～20cm なのである。堤防を高くしたり、あふれやすい場所に遊水地をつくった方がはるかに効果的なことがわかるだろう。</p> <p>音威子府の市街は、遊水地で守ることが可能。</p> <p>天塩川中流～下流部の旧川は、遊水地にすれば下流域の治水と旧川の水質浄化に役立つ。</p> <p>天塩川本流は、サンル川や名寄川に比べて流域面積が大きいので、多くの場合、天塩川本流の洪水ピークは、サンル川、名寄川の本流のピークから、数時間遅れて名寄市街地に到達する。</p> <p>サンルダムは、名寄市街地付近の天塩川の治水にはまったく効果がないか、逆にダムによって水害の危険を高めるおそれさえある。</p> <p>1400KW 足らずの発電は、風車一基の建設ですむ。</p> <p>巨大な魚道の建設費や、漁業対策費などを含めれば、実際のサンルダムの建設費ははるかに多くなるだろう。</p> <p>サンルダムの工事を中止して欲しい。あのようにすばらしい川を後世まで残していつてもらいたい。</p> <p>もうこれ以上、ダム建設は、止めるべきである。公共事業といえばダム建設という思考をもう捨て、行政は北海道の大自然をどう保護するかという、発想の転換を図るべきである。</p>

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成14年3月） ：流域委員会における意見、 ：寄せられた意見
	<p>現実から乖離した人口予想を元に立てられたこのような計画は、単なる税金の無駄使いにとどまらず、将来市民に大きな負担を残すことになる。下川の市民グループによる調査では、サンルダムによる名寄川の洪水調節効果は名寄川真勲別観測所（ダム下流16km）で最大-20～-30cmといわれる。国の基準に合わせて“法律上”危険な名寄川を、“法律上”安全な川にするために、巨費を投じてわずか20～30cm水位を下げる効果しか持たないダムを建設することが意味のあることなのか疑問に思う。我々市民が求める治水対策は、堤防強化、河道掘削、内水対策などもっと実効性のあるものである。</p> <p>「ダムによらない遊水地案」について：当初計画、1.川西下流、2.川西上流、3.智恵文右岸、4.智恵文左岸とし、低水路掘削（200億円）をさらに減額し、河川環境への負荷を極力排除できる「新遊水地」を提案する。この「新遊水地案」は新たにサンルダム水没予定地内に遊水地を設置する。</p> <p>これだけの巨費を投入するサンルダム建設であるが、その効果はサンル地区の一の沢を除いた集水域に降った雨だけをダムで調節するだけなのである。剣淵川や朝日町・士別市・美深町・中川町・天塩町などに降った雨には、何の効果もない。これらでの水害はサンルダムでは解決できません。だから、サンルダムができたとしても、下流天塩川の治水対策はいつまでの続く。サンルダム建設を止め「最小の費用で最大の効果があり、人や環境への負荷の少ない河川行政」が私たちの願いである。開発局が出した「サンルダムの費用対効果」は過大評価である。費用対効果の基本はサンルダム建設費用がなくあくまで530億円であること。</p> <p>天塩川流域の整備・管理（治水）案を考えると、ダムは、現在、流域の自然や産業に及ぼす悪影響が多々指摘されているので、何よりも、ダムに依存しない整備・管理案の構築が必ず必要である。ダムに依存しない代わりに、例えば、流域全体、とくに源流・上流域における森林の保水力を高める方策は、「緑のダム」を重視した非常に重要な観点であり、森林の公的機能（災害防止や生物多様性の保全など）を重視した現在の森林政策に合致する。天塩川流域は、流域全体として、漁業資源としても重視されるサクラマス等の生息に良好な環境を維持しており、ダムやその魚道によってはその生息に大きな影響を与えることが危惧される。</p> <p>ダム下流では河床や河岸の洗掘現象が生じることが知られており、ダムの建設自体が、新たな別種の災害の要因になることが、今や明らかである。ダムは満水になればその治水効果は失われ、さらに一定水位流量をこえると、ダムの存在自体が危険となる。</p> <p>小型イカ釣船8隻ぶんにも満たない発電出力で、いったい何がしたいのか？きわめて微少な節電でまかなうことが可能な、余剰の電力を発生させるために、今後長きにわたり貴重な自然生態系を破壊し、自然資源の再生産をさまたげるのでは、ダムによる水力発電をクリーンエネルギーと称することは欺瞞である。</p> <p>ダムが出来たことによって豊かになった所は、私は知らない。それよりも大切なものを失ってしまう事に、私は絶望を感じる。この投資により、ある程度のリターンが見込めないなら、直ちに撤退すべきである。</p> <p>天塩川の水害も今は無く、サンルダムはサンル川の景観をそこね、莫大なお金を無駄なダムの建設に使うものだと思う。自然の景観を残すことの重要性を理解していただき、サンルダムの建設を是非とも止めてもらいたいと思う。</p> <p>白紙に戻し地元と治水に対し話し合いを希望し、サンルダム建設は反対する。</p> <p>ダム建設による治水効果、費用対効果、地域振興効果等は低いと考えられることから、ダム建設に替わる「緑のダム」としての森林整備、遊水地、河川改修等を総合的に勘案した流域全体の総合対策に切り替えること。</p> <p>天塩川最大の河川事業・サンルダムについて事業者は、ダムによる流域の経済・地域振興効果を具体的に把握しておらず、インフラ整備の基本が欠落。</p> <p>費用対効果の薄いサンルダムについて総合的な観点から建設を中止して欲しい。洪水調節について、過去の事例から直接的な被災地である音威子府～中川での調節効果が「100年に1度」と想定される3日間で220ミリ程度の降雨で約10センチという効果の低さからもダム以外の治水対策で対応可能ではないのか</p>

最上流域のダムは、河道の貯留効果、洪水到達時間、また他の支流からの流入により、流域の治水に効果は期待できない。まして天塩川水系の3%の流域面積しかもたないサンルダムを建設してもダム直下のごく一部を除き、現実の治水効果など派生しないと考えられる。ダム下流では河床や河岸の洗掘現象が生じることが知られており、ダム建設自体が、新たな別種の災害の要因になることがいまや、あきらかである。ダムは満水になればその治水効果は失われ、さらに一定水量を超えると、ダムの存在自体が危険となる。早急な新規利水の必要性は薄い。名寄市では人口減の一方で水道施設の拡張を続けており、この財政負担から、今後4年ごとに水道料金の値上げが必要になるとされている。サンルダムを建設することで、この4年後との値上げが、たとえば2年ごと等になるのでないか。また名寄市の財政難から、この拡張計画も見直しが必要であるとされている、ダムによる利水根拠は一段と薄くなる。小型イカ釣り船8隻にも満たない発電出力で、いったい何がしたいのか？無駄なサンルダム計画の取り止めと、真に地域国民のためになる開発をお願いしたい。

天塩川流域の治水対策として、流域面積の3%の支流であるサンル川にダムを作る効果と旭川開発建設部から出されたパンフレットにある4つの事業目的について、疑問を感じている。事業内容を見直していただきたい。

是非、数少ないヤマメの天然産卵河川であるという自然の価値を失うことも考えた上での費用試算であってほしい。サンルダムの建設費を考えると、ダムだけで洪水対策ができるとは到底思えない。サンル川以外からの流入量をコントロールする対策が不可欠で、結局は遊水地なりを作らざるを得ないと思う。その2点から考えてもサンルダムよりも、遊水地による洪水対策が有効であると思う。

天塩川水系サンル川にダムを建設することに反対する。洪水対策としてどれだけの効力を発揮するかは疑問が残る。サンル川にダムを作り、あの川からの流出量を調整したところで、あれだけ大きな天塩川の水量に変化を持たせることが果たして可能なのか。現在の名寄川からの取水で間に合っているのではないか。観光においても、レジャーの多様化により、当時とは状況が異なる。ダム湖にボートを浮かべたところで、お客さんがたくさんやってくるとは到底思えない。

なお、サナルダム建設事業については、「建設省所管事業に係る環境影響評価実施要綱（昭和59年閣議決定）」に基づき、平成7年に環境影響評価手続きを完了している。

引き続き、各種の環境調査を実施するとともに、その調査結果に基づき、ダム本体や付替道路等の工事にあたっては、環境への影響を極力軽減するよう保全対策を実施し、ダム完成後についても、選択取水等により水質等の河川環境の保全に努める。

これまでサナルダムにおいては、住民との協働によりダム湖周辺の放牧地や畑地等の跡地における植樹や、ダム湖の水際線付近に冠水に耐久性のあるタチヤナギ等を植栽するなどの湖岸緑化の取組みを進めてきており、引き続き地域と一体となって環境保全に取り組む。

また、サナル川流域においてサクラマスが遡上し、産卵床が広い範囲で確認されているため、サナルダム建設にあたっては魚道を設置し、ダム地点において遡上・降下の機能を確保することにより、サクラマスの生息環境への影響を最小限とするよう取り組む。

(2) 洪水を安全に流下させるための対策

1) 堤防の整備

堤防が未整備で河道断面が不足している区間については、新たに堤防を整備する。また、河道への配分流量を安全に流下させるために必要な断面や強度が確保されていない堤防は、拡築や強化など必要な整備を行う。

主として河道の掘削土で作られている堤防は、土質の多様さに加え、工学的にも不明確な場合もあり、さらに下流域には軟弱な地盤等が広く分布することから、堤防の整備にあたっては地質等の調査を行い、必要に応じて対策を行うとともに、堤防整備完成後も点検を行い、質的・量的ともにバランスを図ることとする。

また、堤防の整備に伴い所要の機能が確保できなくなる樋門、橋梁等の構造物については改築等を行うとともに、構造物周辺は必要に応じ護岸等による補強を行う。さらに、堤防防護に必要な高水敷幅を確保できない区間や河岸侵食・洗掘により堤防の安全性が損なわれるおそれのある区間は、その対策として河岸保護工を実施する。河岸保護工の実施にあたっては、河道の状況に配慮しつつ、多様性のある河岸の形成に努める。

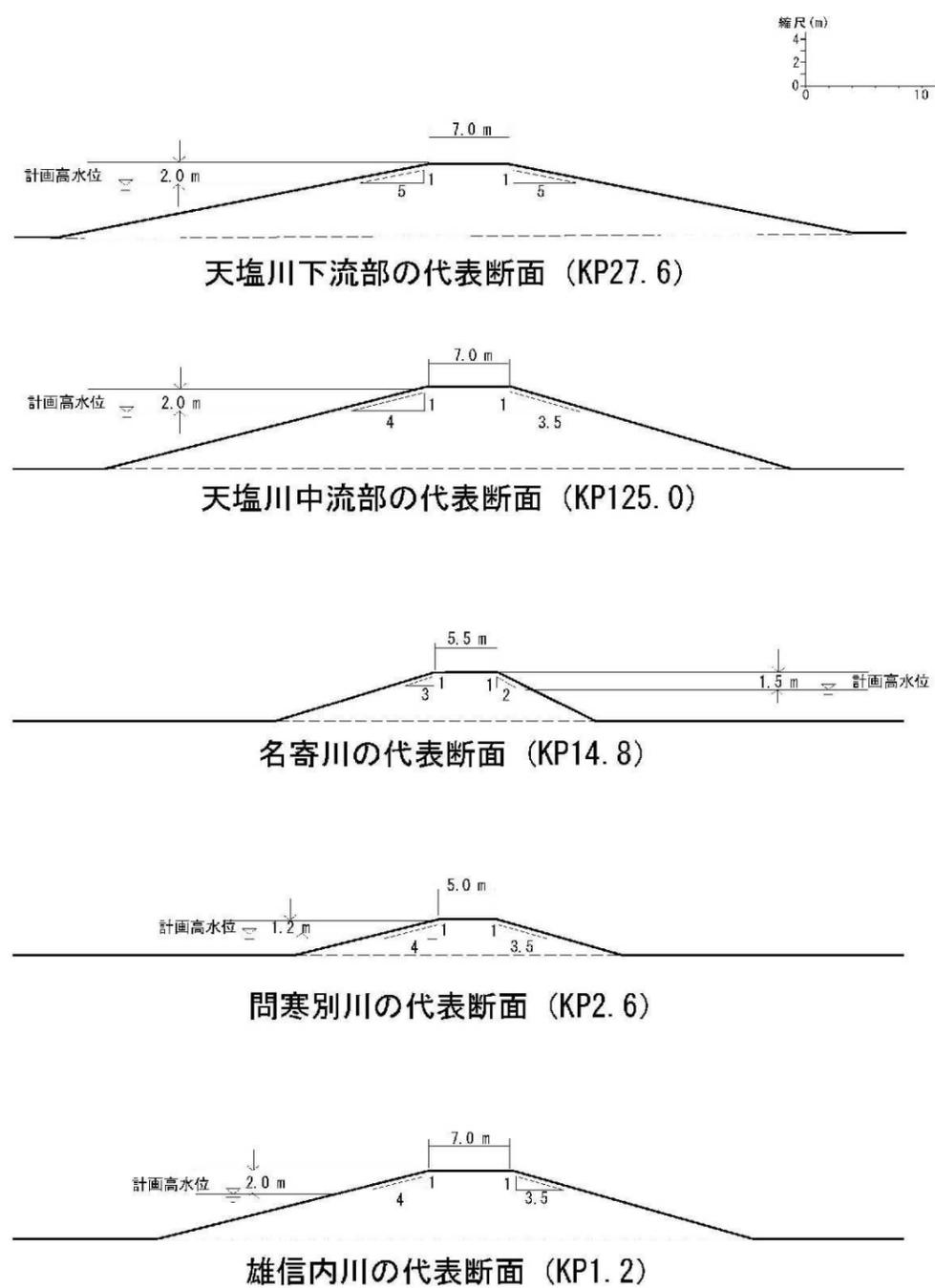


図 2-5 堤防の標準断面図

表 2-2(1) 堤防整備を実施する区間

河川名	左右岸	実施区間
天塩川	左岸	KP 19.7 ~ KP 23.2
		KP 23.8 ~ KP 29.6
		KP 29.8 ~ KP 30.0
		KP 34.4 ~ KP 37.2
		KP 41.0 ~ KP 42.2
		KP 48.6 ~ KP 61.7
		KP 89.6 ~ KP 94.5
		KP 106.9 ~ KP 109.7
		KP 110.9 ~ KP 116.4
		KP 117.0 ~ KP 121.8
	KP 132.5 ~ KP 135.0	
	右岸	KP 13.2 ~ KP 18.8
		KP 22.7 ~ KP 25.5
		KP 25.9 ~ KP 32.1
		KP 45.2 ~ KP 47.5
		KP 48.7 ~ KP 50.5
		KP 51.0 ~ KP 52.7
		KP 53.7 ~ KP 55.2
		KP 57.8 ~ KP 57.9
		KP 64.9 ~ KP 67.6
KP 90.7 ~ KP 92.5		
KP 93.8 ~ KP 96.8		
KP 106.8 ~ KP 108.5		
KP 111.6 ~ KP 112.2		
KP 112.9 ~ KP 114.4		
KP 117.4 ~ KP 119.5		
KP 120.2 ~ KP 125.9		
KP 127.6 ~ KP 127.8		
KP 133.6 ~ KP 135.0		
名寄川	左岸	KP 14.3 ~ KP 15.2
間寒別川	左岸	KP -1.8 ~ KP 2.4
	右岸	KP -1.8 ~ KP 2.6
雄信内川	左岸	KP -0.2 ~ KP 2.0
	右岸	KP -0.2 ~ KP 2.0

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

表 2-2(2) 堤防整備の対象となる2条7号区間を有する支川

河川名	整備対象延長(km)	河川名	整備対象延長(km)
円山ウブシ川	0.7	イオナイ川	1.3
東六線川	1.2	ペンケニウブ川	0.8
円山赤川	1.6	矢文川	0.5
宇戸内川	0.7	サンル川	0.6
ペンケナイ川	0.8	下川ペンケ川	1.1
銅蘭川	0.2	タヨロマ川	6.2
安平志内川	2.2	新タヨロマ川	3.1
ルベシベ川	0.5	オーツナイ川	1.3
音威子府川	1.1	初茶志内川	1.3
ウルベシ川	1.4	ワッカウエンナイ川	0.8
美深川	0.8	東内大部川	0.8
川西六線川	0.5	ヌブリシロマナイ川	0.6

注) 2条7号区間：河川法施行令2条7号に定める区間

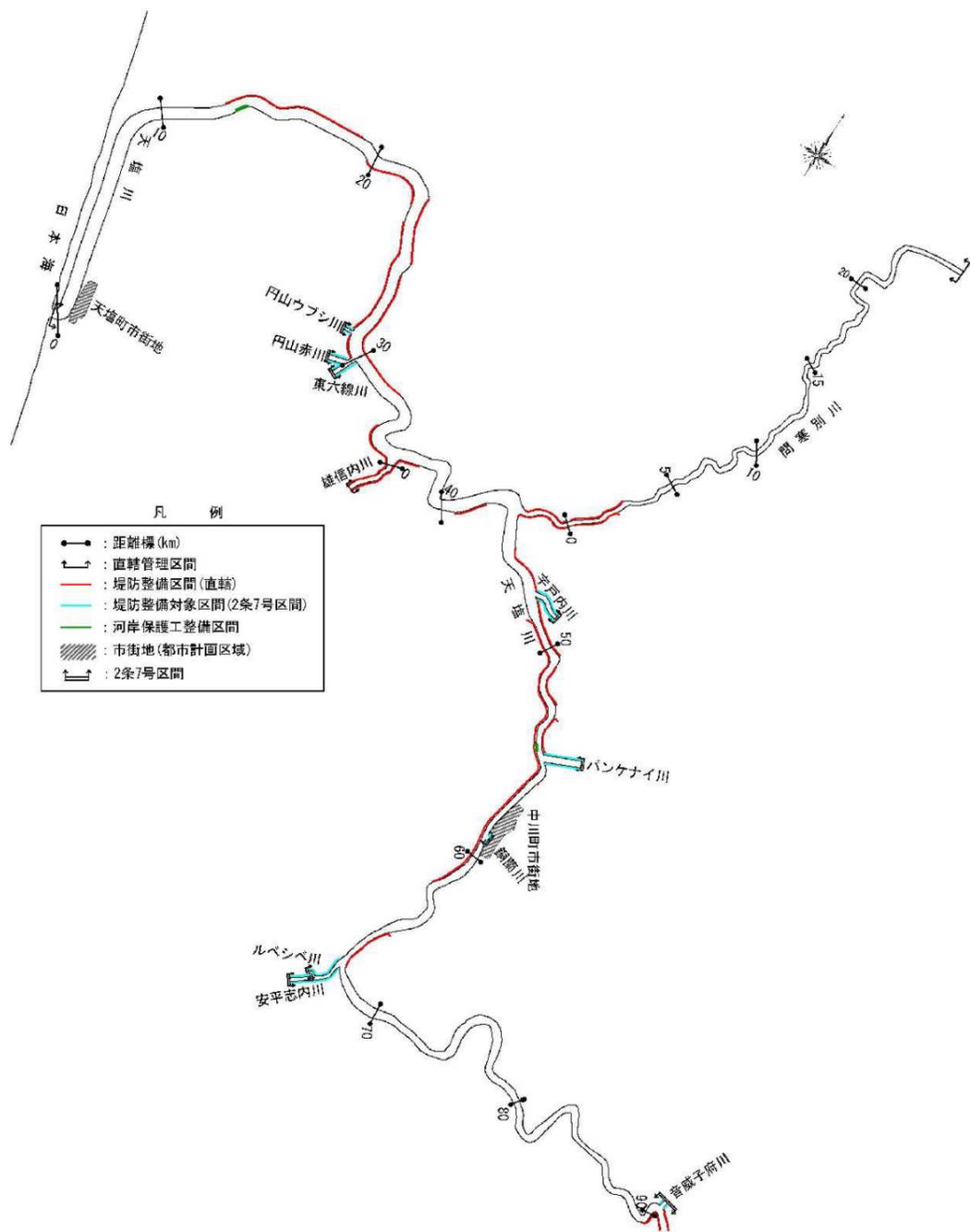


図2-6-1 堤防の整備(拡築等)を実施する区間 1/3

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

- 凡 例
- : 距離標 (km)
  - ↔ : 直轄管理区間
  - : 堤防整備区間 (直轄)
  - : 堤防整備対象区間 (2条7号区間)
  - : 河岸保護工整備区間
  - ▨ : 市街地 (都市計画区域)
  - ↔ : 2条7号区間

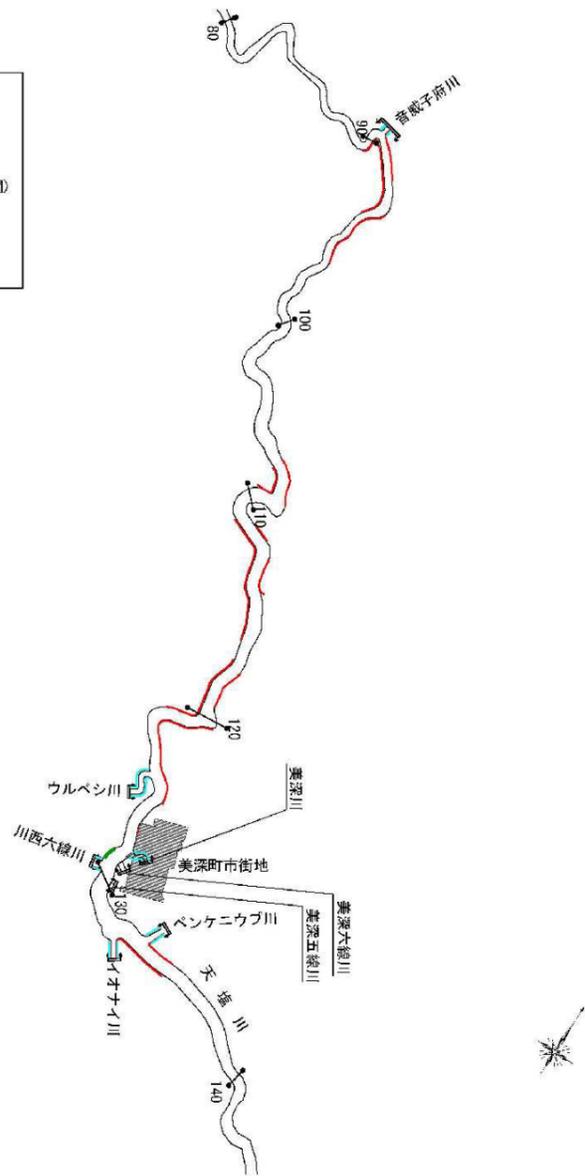


図2-6-2 堤防の整備(拡築等)を実施する区間 2/3

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

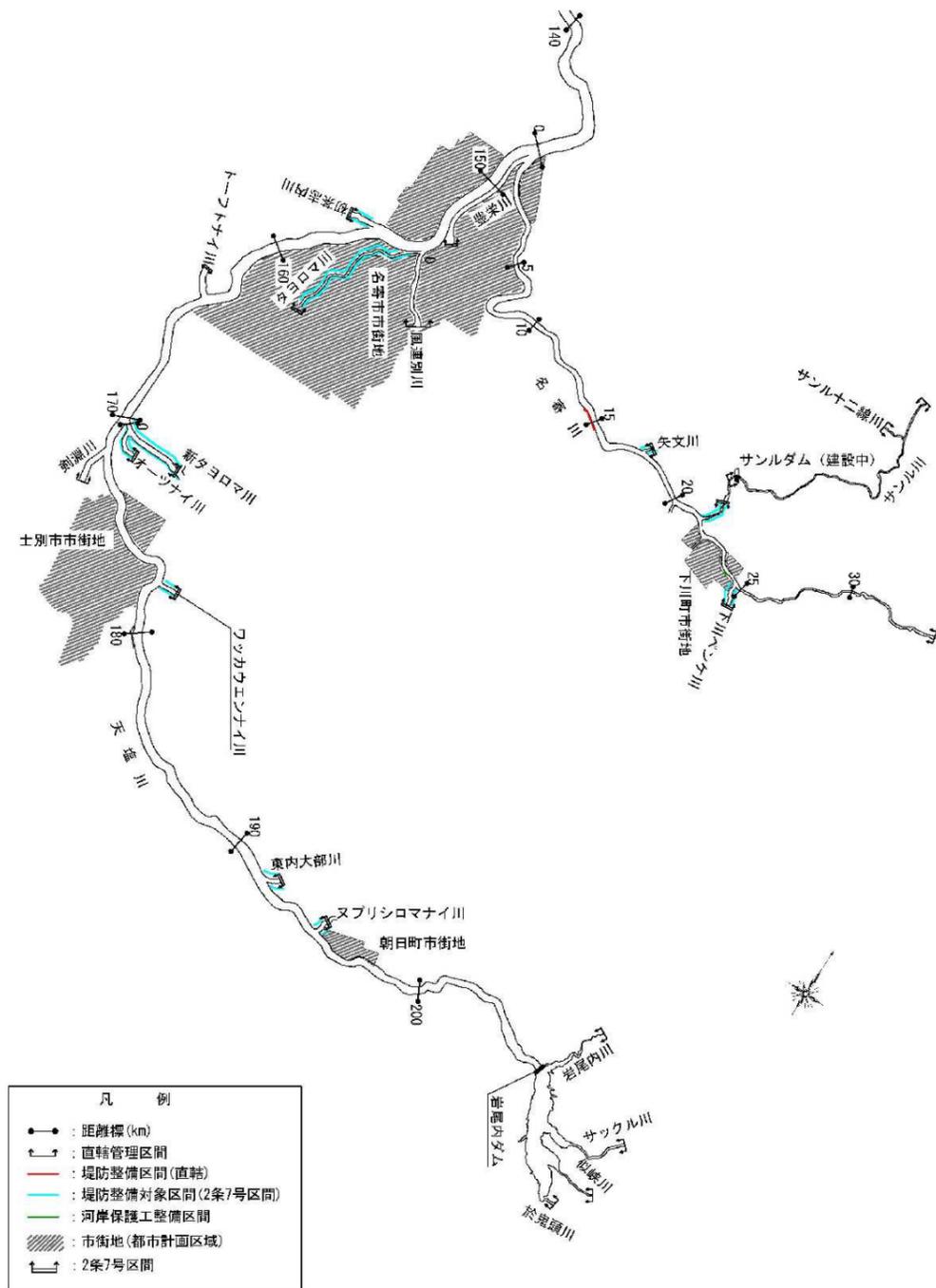


図2-6-3 堤防の整備(拡築等)を実施する区間 3/3

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

2) 河道の掘削

河道断面が不足している区間では、河道への配分流量が安全に流下できるよう掘削を行う。掘削にあたっては、高水敷の広い区間等では掘削形状を工夫することにより冠水頻度を高め、水域から陸域へ徐々に移行する多様性のある河岸の形成に努めるとともに、魚類等の生息の場となっている水際、テッシ、瀬と淵、河畔林等の保全に努める。

また、河道の掘削に伴い所要の機能の確保ができなくなる橋梁等の構造物については関係機関と調整し改築等を行うとともに、構造物周辺は必要に応じ護岸等による補強を行う。

表 2-3(1) 河道の掘削(河道断面の確保対策)を実施する区間

河川名	実施区間	
天塩川	KP -0.2	～ KP 0.2
	KP 39.4	～ KP 46.0
	KP 103.0	～ KP 116.8
	KP 117.2	～ KP 124.8
	KP 126.4	～ KP 128.2
	KP 129.4	～ KP 130.0
	KP 139.2	～ KP 140.2
	KP 146.6	～ KP 148.0
	KP 202.4	付近
	KP 203.4	～ KP 204.0
名寄川	KP 206.4	～ KP 206.6
	KP 6.4	～ KP 7.0
	KP 10.6	～ KP 11.0
	KP 11.2	～ KP 13.2
	KP 13.6	～ KP 15.4
	KP 23.6	～ KP 25.2

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

サケの産卵床は湧水のある場所など周辺環境と関連した場所にあるので、河道掘削は産卵床の周辺環境を含めて考えるべきである。

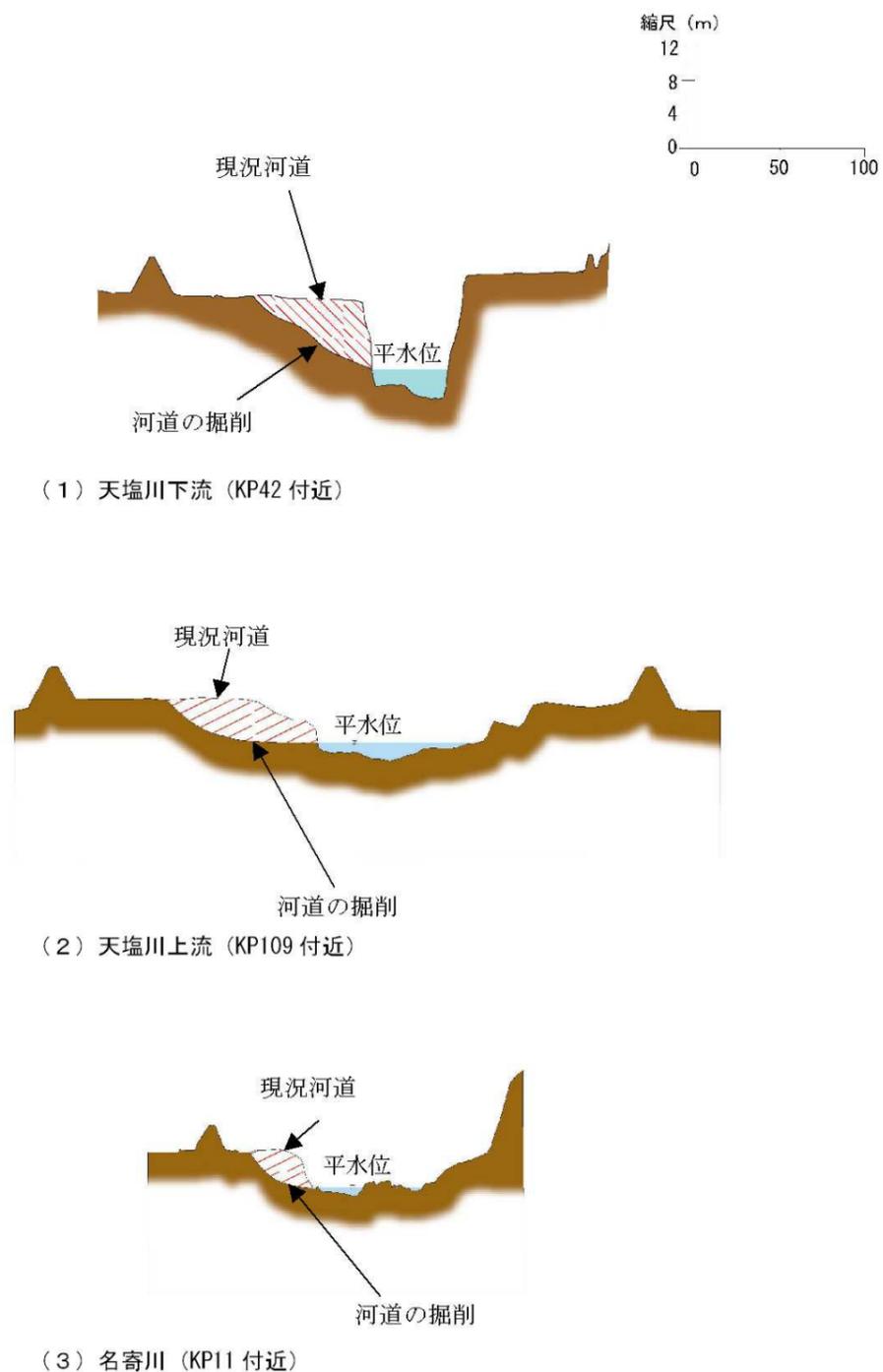


図 2-7 河道の掘削のイメージ図

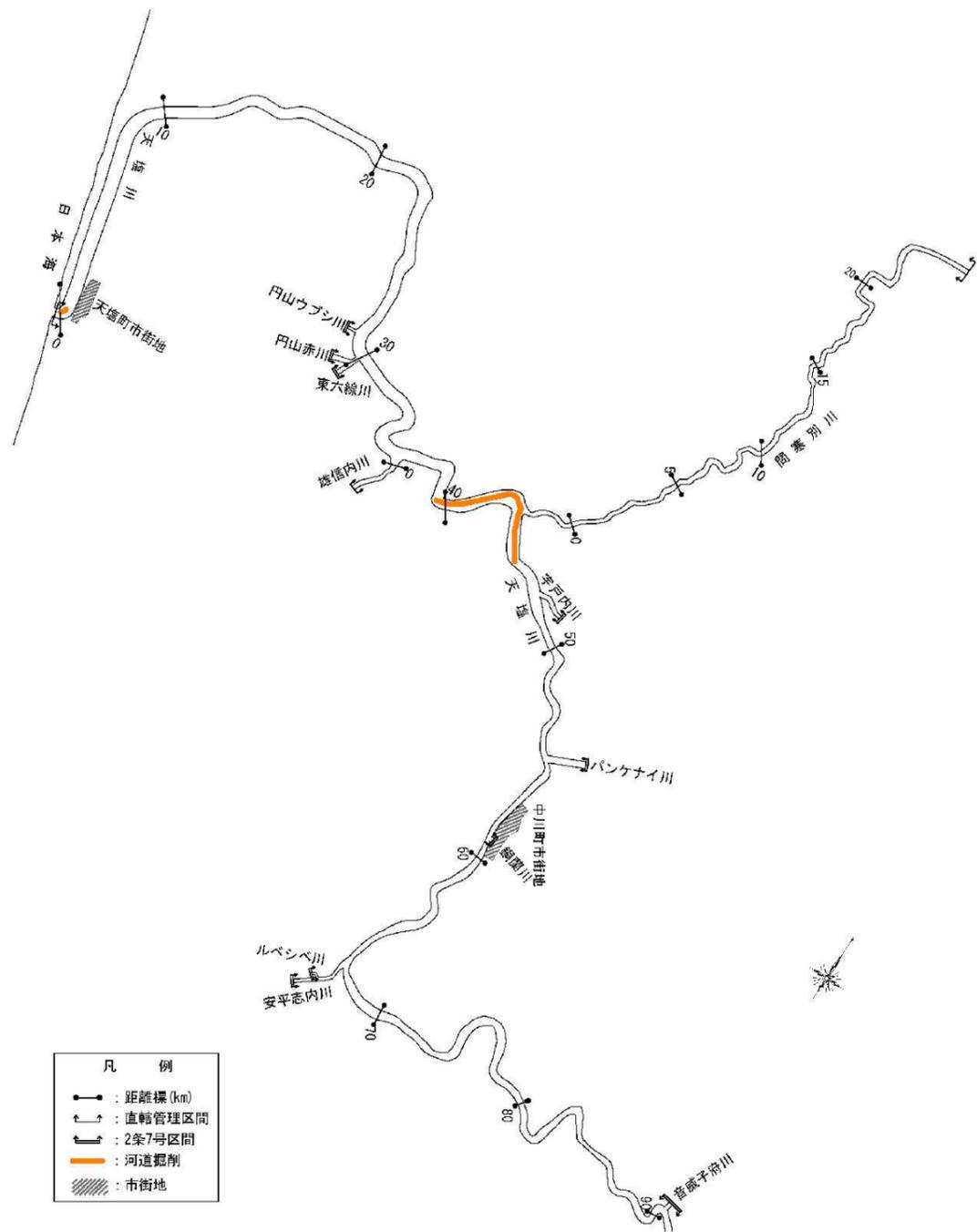


図2-8-1 河道の掘削を実施する区間 1/3

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

- 凡 例
- : 距離標 (km)
  - ┌──┐ : 直轄管理区間
  - └──┘ : 2条7号区間
  - : 河道掘削
  - ▨ : 市街地



図2-8-2 河道の掘削を実施する区間 2/3

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

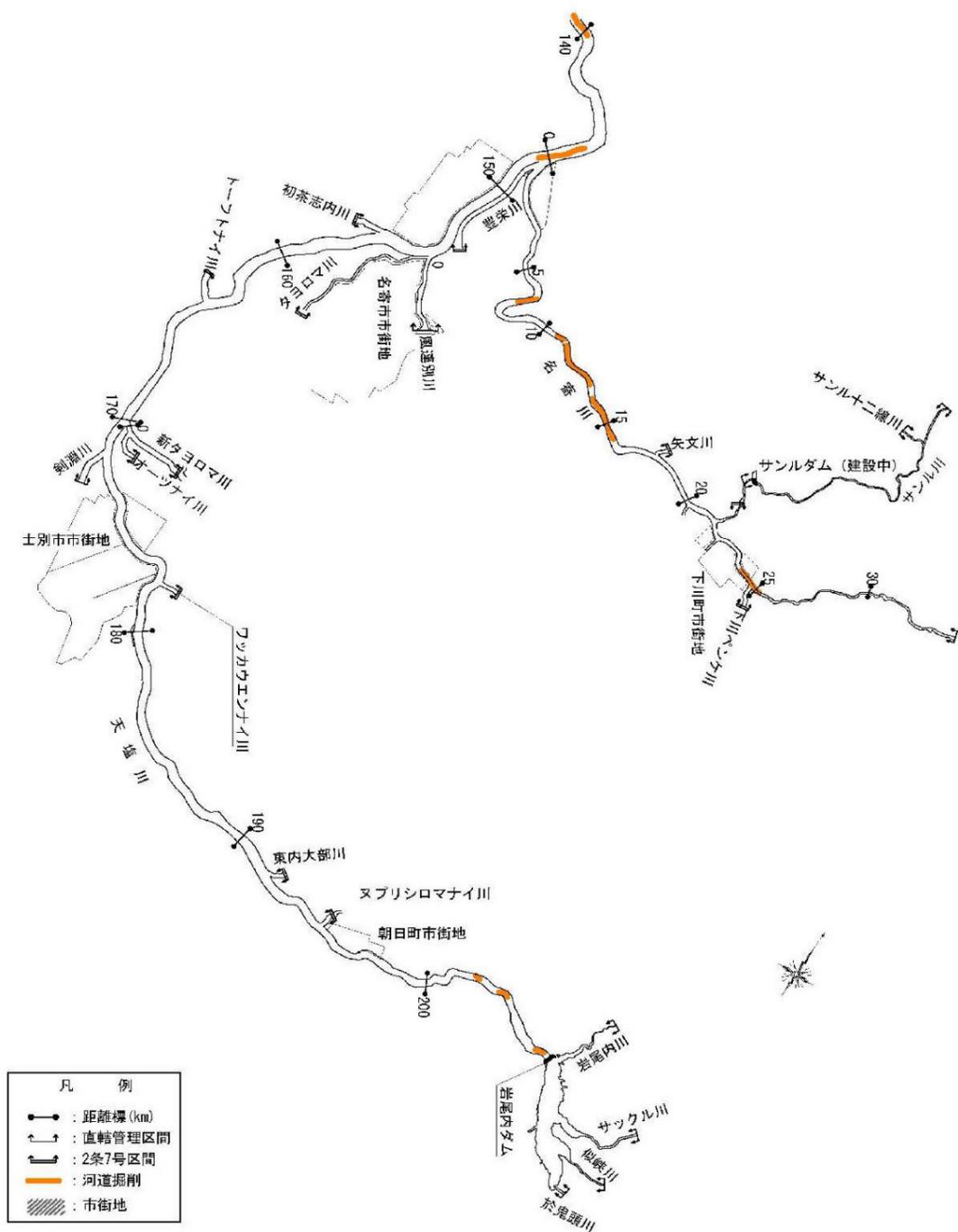


図2-8-3 河道の掘削を実施する区間 3/3

注) 実施にあたっては、今後の調査結果等により、新たに工事が必要となる場合や内容が変更となる場合がある。

(3) 内水対策等

天塩川及びその支川においては、内水被害形態の変化を随時把握し、必要に応じ関係機関と連携し、その被害軽減に努める。

救急内水排水場や排水機場及び河川管理者や自治体が保有する排水ポンプ車等を活用し、円滑かつ迅速に内水を排除する。このため、内水氾濫時にポンプ車、クレーン車等の大型車両が進入、作業できない箇所について必要な進入路、作業ヤード、釜場等を整備する。



樋門釜場



排水ポンプ車による排水



排水ポンプ車による排水

河川の切替等の改修により昔の様な洪水被害もなく助かっている。けれど、樋門の床の高さが昔の河床の設計のままなので堤内の水が抜けず困っている。

(4) 広域防災対策

計画規模を上回る洪水や整備途上段階に施設能力以上の洪水が発生した場合でも被害をできるだけ軽減するよう以下の整備を行う。

1) 河川防災ステーション、水防拠点等の整備

災害時における水防活動や災害復旧の拠点として、水防作業ヤードや土砂、麻袋などの緊急用資材の備蓄基地を整備するとともに、それらに加えて災害情報の集配信機能、水防団の活動拠点機能、物資輸送の基地機能等の水防活動等を支援する機能などを併せ持つ拠点として、河川防災ステーションを関係機関と連携して整備する。なお、平常時においても関係機関と連携し、水辺の憩いなどの場として活用を図る。

また、非常用の土砂等を整備するために堤防に設ける側帯についても、河川周辺の土地利用を考慮して計画的に整備する。

これらの整備にあたっては、必要に応じ避難場所として活用できるよう整備する。

表 2-4 河川防災ステーション・水防拠点の場所等

(河川防災ステーション)

名称	場所	主な整備の内容
士別河川防災ステーション	士別市	水防作業ヤード 緊急用資材備蓄基地 水防活動支援機能など

(水防拠点)

河川名	主な整備の内容
天塩川流域	水防作業ヤード 緊急用資材備蓄基地など

計画を上回る洪水や、予期せぬ濁水等の発生においても、その被害を最小とするような対策が必要である。  
地球規模での異常気象が各地で起こっている状況からも、今までの考えで通用しない部分も出てくると思う。安全性がどのくらいというのも大事だが、不測の事態に備えた対策や整備もこれからは大事だと思う。  
大洪水に対しても被害が最小限に抑えることができる対策や整備が必要だと考える。

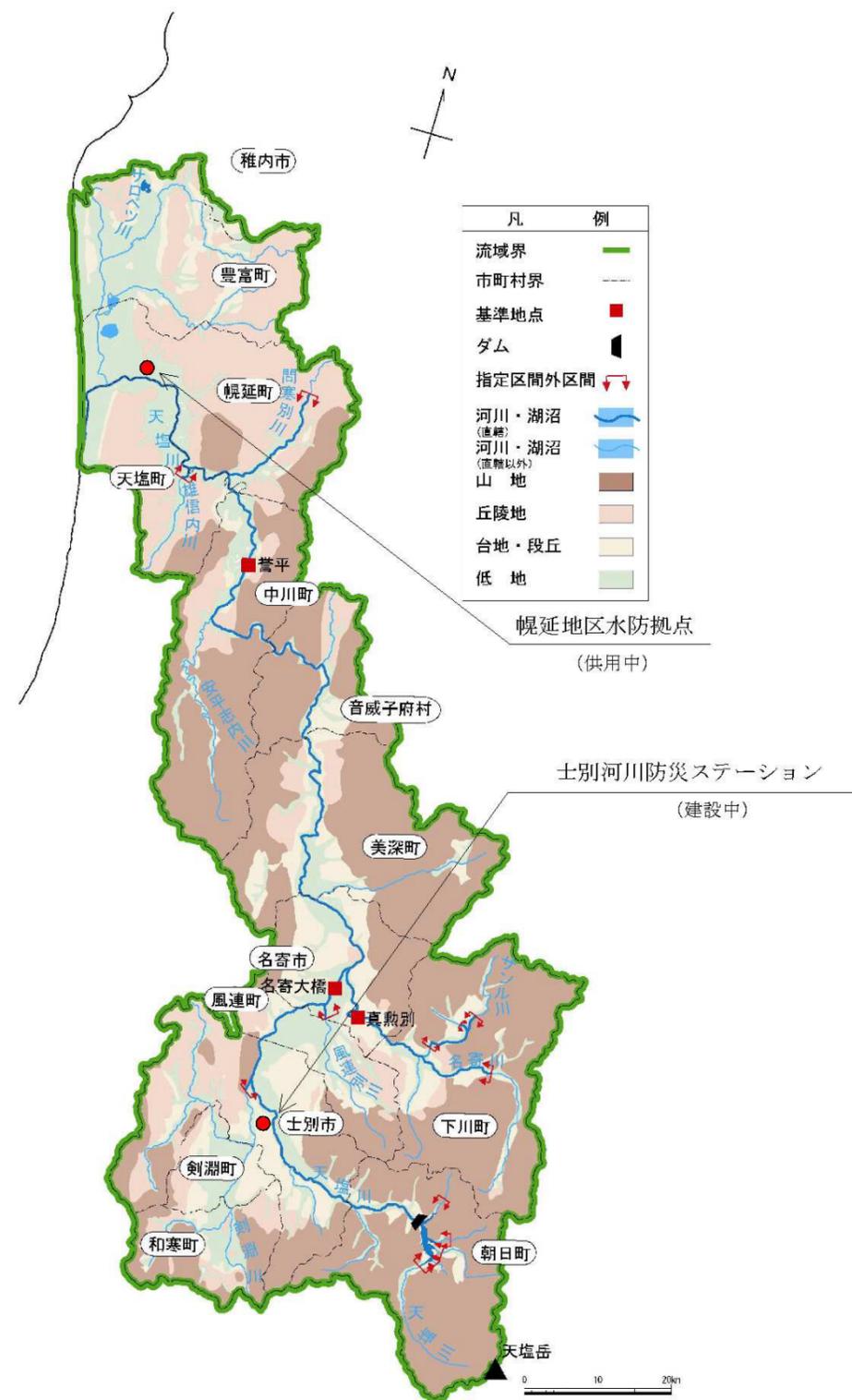


図 2-9 防災ステーション・水防拠点位置図

2) 車両交換所の整備

迅速かつ効率的な河川巡視、水防活動を実施するため、水防資機材運搬車両等の運行に必要となる方向転換場所（車両交換所）を計画的に整備する。

3) 光ファイバー網等の整備

天塩川は長大河川であるため、広範囲にわたる水位・雨量・画像などの河川情報をリアルタイムに収集・監視を行うとともに、これらの情報を関係機関に迅速、的確に伝達し、水防活動や避難誘導等に活用する必要がある。

このため、観測設備、監視カメラ、光ファイバー網等を整備するとともに、遠隔操作等の河川管理業務の高度化を図る。

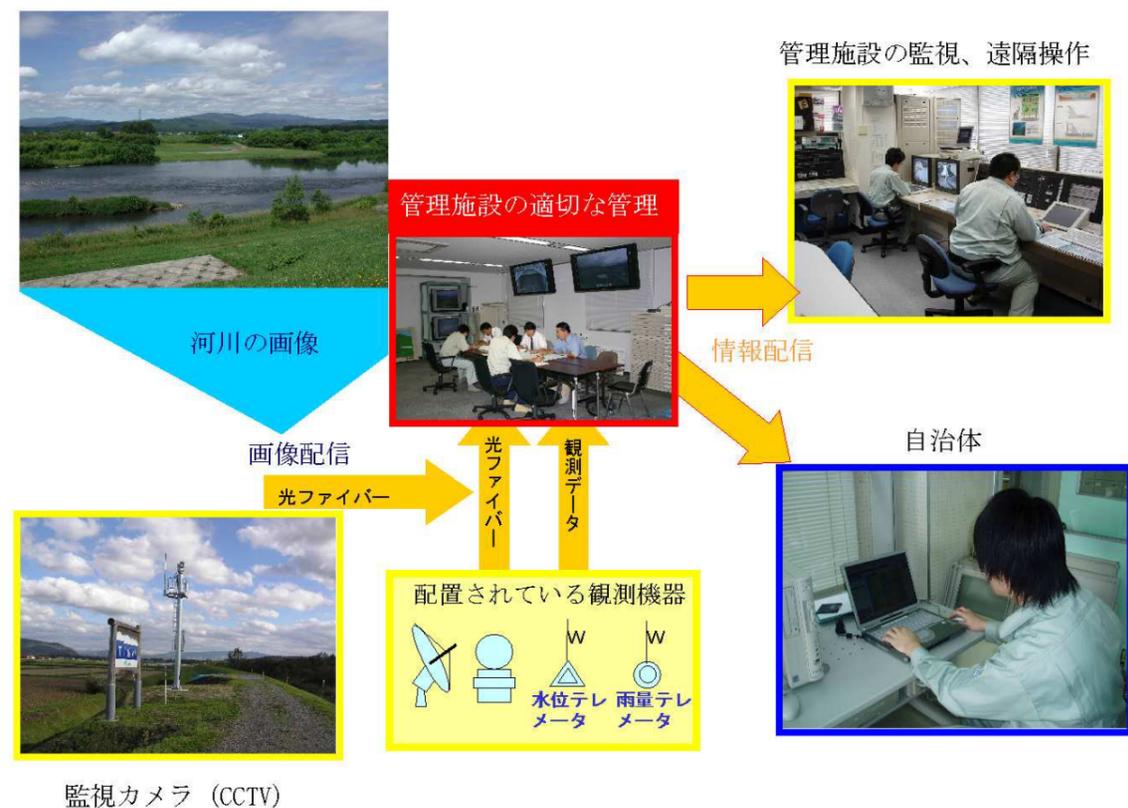


図 2-10 光ファイバー網による河川情報の収集・伝達のイメージ図

2-1-2 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

サンルダムを建設し、流水の正常な機能の維持、水道用水の供給、発電を行う。このことにより、流水の正常な機能を維持するために必要な流量として美深橋地点において概ね 20m<sup>3</sup>/s、真熟別地点においてかんがい期最大概ね 6.0m<sup>3</sup>/s、非かんがい期概ね 5.5m<sup>3</sup>/s を確保し、既得用水や新規用水の安定供給、生物の生息・生育環境の保全等を図る。

生活用水、農業用水、河川環境保全等に必要な流量を安定して供給出来るように水資源の確保を図る必要がある。流域における農業や工業さらには、生活に欠くことの出来ない水道の水源として大切な水を安定的に供給するためにも、早期にサンルダムを建設し、安定した水量を確保することが必要である。

水資源の確保の手段としては、ダムの建設しかないと思う。洪水調整も出来るし、農業用水、家畜用水、工業用水等々に使用水量に合っただけの流量に調整し、残りは貯水という方法で資源確保できるものもダムという構築物のおかげであると思う。一定の水量を保つことが重要だと思う。サンルダム建設の早期完成を願う。

夏の渇水時期になると、名寄川にはほとんど川の水がなくなる。このような状況を改善するためにも、サンルダムは必要不可欠である。

今年は水が少なくて心配。このまま日照りが続くと川の水も減ってしまうので、川から水が取れなくなると心配である。水が取れても水を取ってしまうことで川が枯れてしまうのではないかと。本州の四国では、古くから水不足に備えてため池を造っている。北海道は雪が降るため、春先は水が豊富なのでその水を貯めておけば夏場の水不足など心配に及ばないと思う。

安全で安定した水源の確保が急がなければならない。流域の市民生活、基幹産業を支えてくれる豊かな水、その安定した水源の確保からもサンルダム本体の一日も早い完成が待たれる。

サンルダムが建設されることによって中名寄市の地域の上水道の整備が行われ、よりよい水が供給され、農業用水においても水量の安定した確保が望まれる。サンルダム建設は中名寄地域住民の悲願でもある。

是非、この天塩川らしい水辺環境を保全するためにもサンルダムの早期建設が必要だと思う。

天塩川や名寄川は夏の渇水時期になると、名寄川の中心にほとんど川の水がなくなるのである。このような状況を改善するためにも、サンルダムが必要不可欠である。

サンルダムは、他の火力・原子力・太陽光・風力発電と様々な方法がある中で、CO<sub>2</sub> 排出量が最も少ない方法の貯水池を利用した水力発電であり、渇水時流量でも下川町の全戸の使用電力量をまかなえることができる。

サンルダムは新鮮な水を新たに給水を確保することができ、より住民にとって安全性の高い水道水の確保及び地球に優しいクリーンで二酸化炭素の発生させないエネルギー源であり、また安定した供給とともに河川環境の保全（流水の正常な機能の維持）に役立つので早期に完成を願う。

天塩川らしい水辺環境を保全するためにもサンルダムの建設は必要だと思う。

水量の少ない夏期になると、名寄川の水が渇水すると聞いている。このような状況を少しでもよくするためにもサンルダムが必要なのではないか。

安全で安心できる水源確保のためにもサンルダムの早期完成を望む。

サンルダム建設によって名寄川が川としてよみがえり、魚の生息環境も改善されるのであれば、お金に変えられない喜びであり、それが未来永劫続くわけであるから、地域にとっては大変な財産になると思う。そして、上流流域の整備が整うことによって、下流で暮らす住民にとっても安全で安心できる生活環境が整う。そのためにもサンルダムの早期完成を願う。

渇水時期には河川の維持する水量も不足で、大腸菌群の大量発生が顕著に現れるので一日もサンルダムが完成して、豊富な河川維持水量を確保して健全な河川環境を作っていただきたい。

水稻農家のため、天塩川からの取水によって、生計が成り立っている。夏期の雨が少なくなると心配することもある。ダムなど流水の調節機能を発揮できる施設は必要だと考えている。

近年夏になるとカヌーに乗ることもできないほど水量が激減するなど人と川とのふれあいの場が失われてきているように思う。天塩川らしい水辺環境を保全するためにも、サンルダムの建設は必要であると思うし、整備の推進に当たっては環境を考慮しながら進めて欲しい。

天塩川水系河川整備計画（原案）H17.7	：天塩川かわづくりの提言（平成 14 年 3 月） ：流域委員会における意見、 ：寄せられた意見
	<p>川には一定の水量がいつも保たれていないと魚や水鳥にも影響があり、酪農への影響もあると聞いた。サンルダム建設が言われているが、いつまでも素晴らしい景観と自然を守るためにはサンルダムの必要性が高いと思う。サンルダムの早期完成を下流部に住む人間として願う。</p> <p>近年、天塩川の湧水状態がひどいと思う。カヌーを楽しむ方が増えて川への親しみが実感できるが、湧水状態ができるのはカヌーが一番乗れる夏場である。このような状況を解消するために一定の水量が天塩川になければならないと思うので、サンルダムの早期着工を願う。</p> <p>いつも悠々と流れる天塩川が、一定の水量を保ちながら利水活動ができ、かつ、流域住民が安心して生活できるためにもサンルダムの早期完成を願っている。</p> <p>水量の一定を保つダムの建設が必要と思うので早期建設をお願いする。</p> <p>天塩川、名寄川の湧水時には悪臭さえもただよ。天塩川らしい水辺環境を保全するためにもサンルダムの建設は必要だと思う。</p> <p>農業用水について：国の減反政策により毎年休耕面積が増えそれにつれて離農者が増え続けている今日、今迄間に合っていた水が今更不足しているとは考えられない。中名寄地区で水不足を訴えている農家は一軒のみ。</p> <p>飲料水について：現在は 27,000 名を割ろうとしている。将来は不足すると云っているのはおかしい。</p> <p>工業用水について：現在ある製紙工場は、事ある毎に転出が噂されており、工場の規模も年に縮小されているのにおかしい。</p> <p>自然破壊について：名寄川・特にサンル川は数少ない鮭鱒の種川である。漁業が先細っている現在、これ以上種川を減らしてはならない。ダムによる水質低下は免れない。</p> <p>費用対効果の薄いサンルダムについて総合的な観点から建設を中止して欲しい。</p> <p>流水の正常な機能の維持</p> <p>「水辺の環境を守り、自然や動植物を保全することができる」とあるがダムにより自然な土砂等の下流への供給が阻止され、河床低下となり河岸崩壊が発生することが、既存ダム下流域の事例から明らかである。また、ダム湖内で拡販された水が流出することにより下流域の水質汚濁、生態系変化をもたらすことからダムは不要。</p> <p>水道用水の供給</p> <p>現段階で将来の需要増は見込めないこと、また試算自体が過大であること。このままで計画通り水利権を設定すると名寄・下川の自治体住民の水道代負担が大幅に増大することとなるが、そのような建設に不利になる説明がされていないのではないか。あらためて試算を行い、客観的な説明をしないべき。</p> <p>発電</p> <p>風力発電 1 機分程度の発電ならば設備費が過大ではないか。</p>

2-1-3 河川環境の整備と保全に関する事項

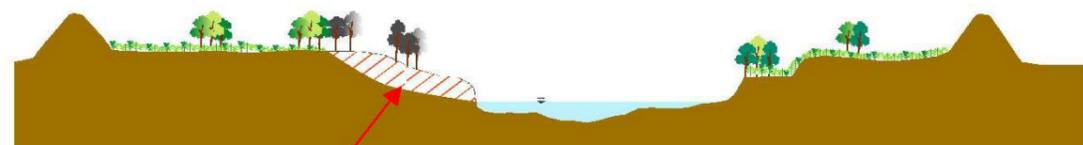
(1) 水際の多様化

天塩川の水際から高水敷にかけては、河畔林が分布している。これらは、多様な生物の生息・生育の場の形成、洪水流勢の緩和、良好な景観の形成、自然との豊かなふれあいの場の提供など多様な機能を有している。一方、河畔林が洪水の安全な流下に支障を及ぼさないよう治水面との整合を図りつつ、これらの機能の保全を考慮した河川の整備や管理が必要である。

このため、河道の掘削等にあたっては、水際の冠水頻度を高めるような掘削を行うことにより、多様性のある河岸の形成に努めるとともに、河道内の樹木は、洪水の安全な流下に支障とならない範囲で縦断的な連続性並びに周辺樹林地との連続性に努める。

なお、樹種や樹木の大きさ、位置や密度などを踏まえた効果的な樹木管理方法について、引き続き調査・検討を進める。

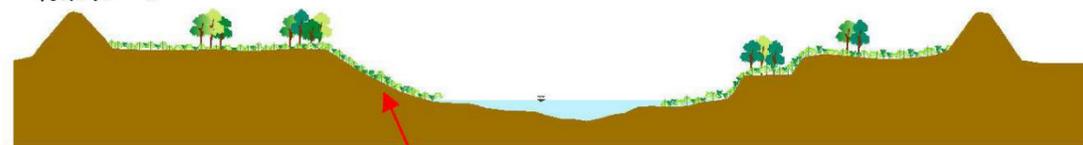
掘削イメージ



河積確保のために低水路拡幅、中水敷掘削を行う

凡 例	
	保 全
	伐 採

将来イメージ



多様性のある河岸を形成

図 2-11 水際の多様化のイメージ図

天塩川の 100 年後、200 年後を見据えて、多様性のある河畔林の再生を図るとともに、生態系の連続性についても考慮する必要がある。

流下能力確保のための河畔林管理については、樹木の成長や樹種、鳥や魚等の生息環境を考慮して検討すべきである。

河川の自然環境は、戻りの回廊として連続性が必要で、豊かな河畔林が発達してさまざまな植物が生育すると、昆虫・魚類・小動物・鳥類等が生息する多様な生態系を生み出す。

治水事業は、人命や財産を守るために必要なことである。治水事業を進めていくなかで、川に残された森林を残す、エネルギーを考えるなど、付加価値を付けていくべきだと思う。

## (2) サンプルダム建設事業における取り組み

サンプルダム建設事業については、「建設省所管事業に係る環境影響評価実施要綱（昭和59年閣議決定）」に基づき、平成7年に環境影響評価手続きを完了している。

引き続き、各種の環境調査を実施するとともに、その調査結果に基づき、ダム本体や付替道路等の工事にあたっては、環境への影響を極力軽減するよう保全対策を実施し、ダム完成後についても、選択取水等により水質等の河川環境の保全に努める。

これまでサンプルダムにおいては、住民との協働によりダム湖周辺の放牧地や畑地等の跡地における植樹や、ダム湖の水際線付近に冠水に耐久性のあるタチヤナギ等を植栽するなどの湖岸緑化の取り組みを進めてきており、引き続き地域と一体となって環境保全に取り組む。

ダム等に対する基本的な考え方として、これまでは中小の砂防、治山ダムも含めて漁業に対してプラスの点は認め難く、漁場環境を破壊する懸念が払拭されないことから、基本的に容認しない姿勢である。サンプルダムについても、サクラマス資源も含めた河川環境への悪影響や河口海域への濁りなどの漁業影響も懸念されることから、ダム本体工事の同意はできない基本姿勢である。

「河川」や「ダム」は、地域の産業振興に重要な役割を果たすことは明白であり、整備の推進に当たっては、環境あるいは生態系への配慮を考慮しながら進めて欲しいと考える。

サンプルダムは、本来4つの目的以外に環境に十分配慮したダムとなっており、今後のダム建設に大きな影響を与えるものと思う。また、サンプルダムは、日本で初のCSGダムとのことであり、環境に配慮したダムとあわせて大いにPRができるものと期待している。

サンプルダムに取り組んでいる関係者の皆さんは、緑を絶えさせないよう「郷土の森づくり」に頑張っている。私も毎年参加している。「郷土の森づくり」その思想に共感しているからだ。緑豊かなダムが、早く出来るように期待している。

「郷土の森づくり」に参加し、みんなで植えた苗が近い将来、湖畔の森になることをとても楽しみにしている。天塩川にも木がたくさん残っている。森のある豊かな河川環境もあわせて残していくような川づくりをして欲しい。

下川は、循環型森林経営ということで、森林・林業を中心としたまちづくりを目指しており、湖の出現と合せて「森と湖」により、「癒し」「憩い」の場となり、豊かで恵まれた環境が創出されると考えている。ダム建設やダムが出来たことによってもたらす町の経済効果については定かではないが、下川の財産となるよう町民のみんなで考えて行きたい。

自然を残すことも大切だと思うが、サンプルダムは、従来の森林面積よりも多くなるよう植樹等を計画的に進めていくなど、長期的な展望で自然と調和した人間が文明生活をしやすい環境を作るためにも必要だと思う。

自然と共生した私たちの快適な生活を実現することは決して優しいことではないと思うが、サンプルダムの建設に当たっては是非とも、こうした観点での検討を進めてみる必要があるのではないかと考える。

サンプルダムが建設された場合には、ダムに大量の土砂・有機物を溜め込むことになり、水質の劣化を招き、かつダムの下流域では、河床低下に伴う河岸崩壊・堤防決壊・道路崩壊・農地崩壊など多くの災害を新たに発生することが目に見えていいるし、サケやサクラマスなどの、水産資源の枯渇に関わる重大な影響を与える可能性が予測できる。サンプルダム建設でも、災害予防措置として、護岸や床固工が敷設されることは避けられず、建設後にも、災害発生のために補修工事が繰り返されて、次々と「床固工」が敷設されることが予測されるから「湧き水」や「伏流水」が蓋をされ、サケやサクラマスなど、魚の産卵場が失われることは必至であり、水産資源の減少や枯渇が危惧されてならない。また、本流の河床が低下すれば、本流に注ぐ支流すべてに「吸出し効果」が現れ、新たに支流で、河床低下と河岸崩壊が発生することになり、起こらなくてもよい、道路崩壊や農地崩壊などの災害が引き起こされることになり、災害が、止め処も無く繰り返されることが危惧される。サンプルダムから下流で、予測される河床低下と河岸崩壊は、大量の泥を新たに産出し続けることになるから、サケ、サクラマス資源を、種苗の段階から根絶する可能性があり、かつ、流れ出したシルト状の泥やウォッシュロードは、沿岸海域のプランクトンやホタテなど、多くの水産生物に影響を与える可能性があり、水産資源の減少や枯渇にも結びつく「危険性をはらんでいる」といえる。天塩川の「河川整備及び管理」には、サンプルダムによらない別な方策を検討するべきで、サンプルダム建設は中止すべきだと思う。

下川町ではサンプルダム完成を見込み、「森と水を活用した環境作り」を目指して「エコパーク構想」を策定した住民・団体からの話を聞いたことがある。エコパーク構想が地域を越えて、市町村にも連動した事業が行われれば最高だ。そのためにまずはサンプルダム建設を急いでもらいたい。

下川町は出現するダムをどうやってみんなの財産としていくかを語り合ってきた。循環型森林経営を目指し、森林・林業の振興を図っている町としては、出現するダム周辺において展開している「21世紀の森」「サンプル牧場」と合わせ、恵まれた環境により、地域の憩い場、癒しの場として活用していくことで取り組んできた。地域のそういった取り組みについてもっと反映させていただきたい。

(3) 魚がのぼりやすい川づくり

天塩川やその支川ではサケ・サクラマスの上りや自然産卵、カワヤツメなどの生息を確認している。これらの生息環境を維持するためには、流況や河床を適切に維持することに加え、天塩川とその支川や流入水路等において移動の連続性を確保することが重要である。

このため、風連 20 線堰堤、下士別頭首工、剣和頭首工、士別川頭首工、東士別頭首工等において施設管理者と調整・連携し、魚道の整備など魚類等の移動の連続性を確保を図る。また、上流の支川などで、横断工作物等の影響で遡河性魚類の上りがさまたげられている箇所がある。このため、関係機関と調整・連携し、横断工作物や樋門地点等において魚類等の移動の連続性を確保に努める。

また、サンル川流域においてサクラマスが遡上し、産卵床が広い範囲で確認されているため、サンルダム建設にあたっては魚道を設置し、ダム地点において遡上・降下の機能を確保することにより、サクラマスの生息環境への影響を最小限とするよう取り組む。



風連20線堰堤

名寄川の濁水が、今回の整備計画で改善されることを期待している。また、魚道については、濁水時に既存の魚道が機能しているかどうかはわからなく、今回の整備計画で実現できるようにしてほしい。

これからの川づくりは洪水から守ることはもちろんのこと、魚がのぼれる川づくり、魚の住みやすい川づくりについても考えて欲しいと思う。建設が予定されているサンルダムにはもちろん、今ある堰堤や砂防ダムについても積極的に魚道を設置してもらいたいと思うし、天塩川全体が魚ののぼれる川になれることを願う。

士別～風連の堤を撤去して魚道を確保していただきたい。

天塩川はもう日本では、まれな川に属する。サクラマスが上流部まで上がり、産卵し、また下る。その豊かな川の上流部はほとんどダムによって仕切られ、最上流まで上られるのはサンルダムくらいだろう。豊かな自然が確実に残っている川。

建設予定地が、現在稀少となりつつある鮭類在来種サクラマスの 1 大産卵床である。

反対理由の一つとしてサクラマスの問題があり、私も釣りが好きな一人だが、興味で安易に反対するのはどうかと思う。遊水地にすると、名寄川周辺の水田の殆どが潰れ新たな大きな問題が起き、明らかに比較にならないことを言っている。サクラマスの保全は私達もの望んでいることであるところであり、サンルダム以外に砂防ダムに堰堤に魚道をつける等、出来る限りの保全対策を地域の人たちの声で考える時である。

二風谷ダムによって、沙流川上流のサクラマスは壊滅状態。

アメリカでは魚道をつくってもサケ・マスが上がれないのでダムの撤去が始まっている。

サンルダムをつくれれば、工事や走り回る車ダンプの排気ガスだけで、せっかく減らした CO2 も帳消し。

サクラマスの遡上できる豊かな川として今誰がダムを必要としているのか全く理解ができない。私たちの子供達にダムの無い自然豊かな天塩川流域を残してあげたい。

私は外来種である虹鱒を釣りたい人間であるが、現在の社会動向を見ていると、自分の楽しみを続けるためにも、在来種であるサンル川の山女は守らなければならないと感じている。

現在、出されている管理計画でもっとも大きな問題はサンルダムの建設計画である。この計画は、新河川法、ならびに生物多様性条約に照らして、重大な問題がある。新河川法では、従来の治水・利水・親水に加えて河川環境の維持整備がうたわれているが、サンルダム計画では、サクラマスの遡上に大きな影響が出るだけでなく産卵場所が大きく失われるなど、サンル川・天塩川の河川環境に決定的な悪影響をもたらす。サクラマスへの悪影響は、天塩川の河川生態系全体にも大きな影響をもたらすことは必至であり、これは生物多様性条約から見ても、許されない。環境科学の立場からすれば、サンルダムの建設目的とされている治水・利水・発電などはいずれもダムに代わる代替案で十分に達成可能であり、天塩川の河川環境に決定的なダメージを与えるサンルダム計画は科学的に容認できない。

サクラマス、サケ、ヤマトシジミ等の生息・生育環境の保全を図る他、チョウザメが生息できる河川環境を再生する必要がある。

魚道が整備されたにしろ、ダム案が進めるとこのサクラマス（ヤマベ）はいなくなります。「魚道を作ればサクラマスは遡上する」と安易な考えを検討していただきたい、自分の娘が、孫が妊婦さんなら、あなたは妊婦に階段を上らせませんか？再度ダム案についてももっと真剣に考えていただきたい。

環境に影響があるように思っているだけではないか。サンルダムはヤマベに影響があるようだが、ヤマベはやはりとても重要なものなのだろうか。貴重であれば釣りも止めなくてはならない。

(4) 河川景観の保全と形成

河川景観については、流域特性や土地利用、地域の歴史・文化等との調和を図りつつ、その保全に努めることを基本とする。

天塩川の河川景観を特徴づける、テッシや河畔林、旧川については治水面と整合を図りつつ、その保全に努める。なお、サロベツ湿原については、関係機関と連携しその保全に努める。



天塩川に点在する露岩地形  
（楠の瀬）



河畔林が連続して形成される中流部

テッシの保全とテッシ周辺部の多様な生態系に配慮した川づくりを考える必要がある。  
サロベツ湿原の乾燥化や、ペンケ沼等の水環境保全については、関係者が連携し、迅速な対応が必要である。  
サロベツ川においては、地域の土地利用や湿原環境の保全、水産資源等に配慮した治水対策を検討すべきである。  
車から天塩川を見ることができないのは残念である。河畔林というのか、これをある程度伐採し、景観も保全することで天塩川の素晴らしさが保たれると思う。

(5) 旧川及び汽水域での環境の保全

旧川については、地域と協力して水質維持に努めるものとする。また良好な生物生息環境を有する旧川については、旧川環境の保全や整備に努める。

天塩川河口付近の感潮区間では、ヤマトシジミをはじめとする汽水性の多様な生物環境があるため、生物生息環境の調査を行い、関係機関と連携して汽水域の良好な環境の保全・整備に努める。

(6) 人と川とのふれあいに関する整備

地域や市民団体と連携し、天塩川の豊かな自然環境を、人と河川とのふれあいの場や環境学習の場などとして活用できるよう、風連地区などにおいてできるだけ自然を活かした親水空間の整備に努める。

整備にあたっては、地域のまちづくりとの整合を図りながら、案内看板、駐車場、休憩施設、スロープの整備など既存施設の改善に関係機関、地域住民と連携して取り組むとともに、車椅子の利用者や高齢者など誰もが安心して親しめるよう努める。

また、カヌーの発着可能な河岸保護工や案内看板等による「川の駅」の整備等により、多様化する河川利用の支援に努める。

天塩川の特徴である蛇行、旧川の機能を活かした良好な河川環境の保全・再生を図るべきである。  
 旧川を利用する場合には、旧川の持つ貯留効果や水質改善等様々な機能について考慮する必要がある。  
 旧川の蛇行復元や水質改善などについても検討する必要があるのではないかと。  
 三日月湖を含めた天塩川の水環境の現状とその保全対策等を整理すべきである。これまでの法的規制と果たしてきた役割も整理した方がよい。

天塩川や旧川の水質を保全あるいは改善するためには、流域の人々や関係機関が連携してその対策を考える必要がある。

天塩川を軸にした、カヌー、ラフティング等の水面利用の促進を図るとともに、流域及び地域住民の交流拠点となる「川の駅」などの構想を検討すべきである。

天塩川を流域住民の憩いの場、自然学習の場、あるいは水辺に親しめる空間として整備する必要がある。

子供たちが川で遊び、川から学ぶことのできる環境を作る必要がある。

流域の自治体、住民団体等と連携し、市町村の特徴、特色を生かした川づくりを推進する必要がある。

天塩川のこれからの河川整備や今後の展望を描いていくべきであり、治水とともに、河川空間の活用を検討する必要がある。

「川の駅」や岩尾内ダム直下からのラフティングが出来る環境整備について河川整備計画に盛り込んでほしい。

自然を守り自然に親しみながら、快適で暮らしやすい生活を送ることができる環境を創造していく方法で開発を進めていくべきだと思ふ。

士別市の天塩川河川敷には、サッカー場、ソフトボール場、パークゴルフ場、テニスコートなどのスポーツ施設や公園が整備され、スポーツを楽しむ人々や散策を楽しむ人など、子どもから高齢者まで、市民の憩いの場となっている。今度もこうした空間の創造に勤めて欲しいと願っている。

自然には無駄がないことと自然と共存して生きていること、この道北の大自然から学んでほしいと思ふ。このことが、子供の成長の重要な一助になると考えるからである。

釣ったその魚を安心して口に運べるそんな魚が住む天塩川、私達の生活の中にすでに深く関わりが生まれおり、共存していかなければなりません。私達の心を癒し、そんなあったかい豊かな水づくり行政が展開されることを願う。

地域の住民がもっと川と接する機会を増やし薄れてしまった川への関心を再び呼び戻してほしい。河川環境調査や周辺の美化を通じて、子供達の総合学習に役立てて欲しい。普段からの住民同士のつながりが深まり万一の災害時にも迅速な対応が図られることを期待します。

カヌーに乗る時ですが岩からすぐに水が深くなっているので乗り場があれば大変便利だと思ふ。



美深アイランド（美深町）



天塩川のシジミ漁